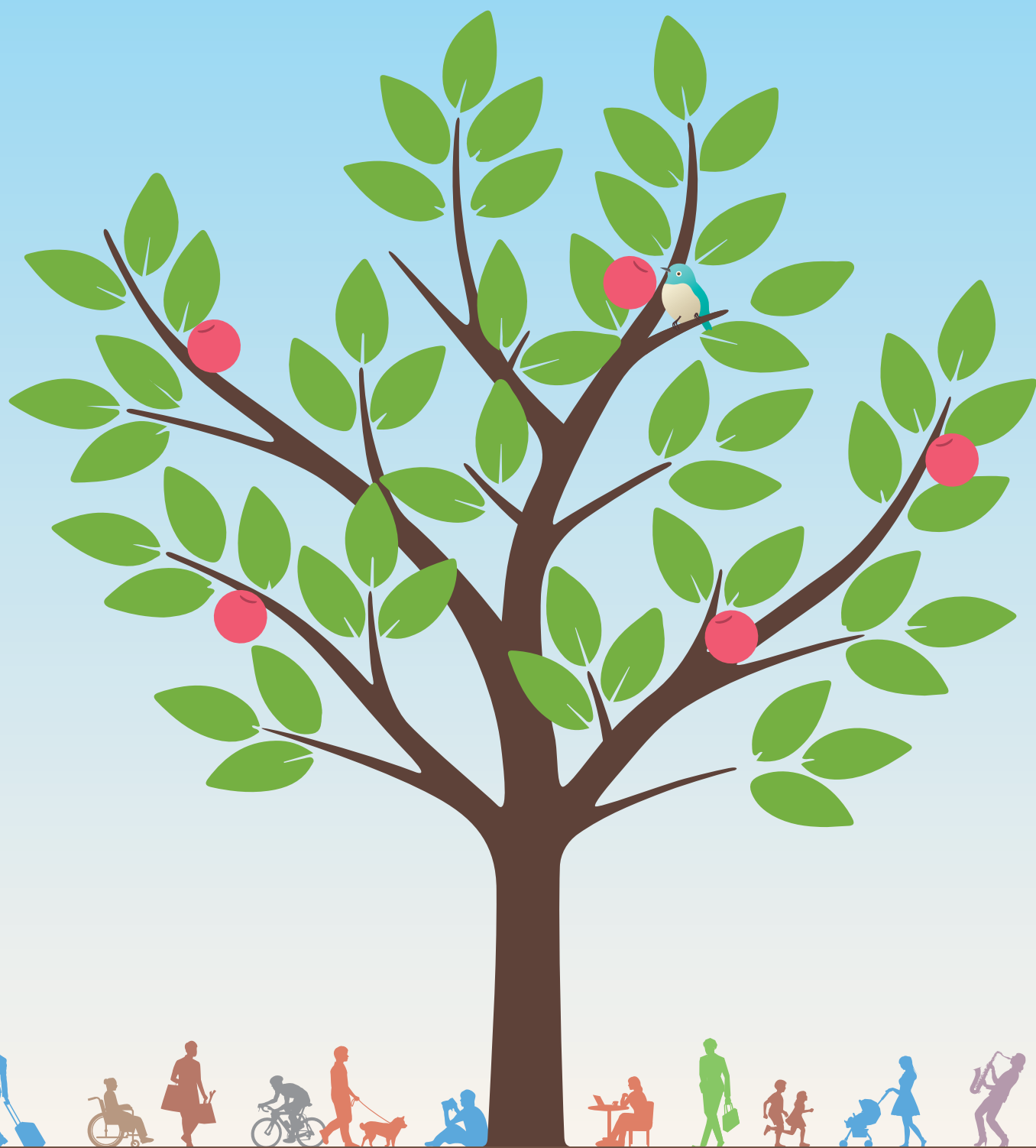


神戸地域ビジョン 2050

みんなの希望にフィットするまち・神戸



目 次

1	はじめに	1
2	神戸地域を取り巻く状況	5
1	人々の意識と生活の移り変わりをとらえるための3つの視点	5
2	神戸地域をとりまく社会環境、自然環境の変化	7
3	総括	8
3	神戸地域の目指すビジョン	9
1	目指す姿	10
2	「目指す姿」の構成要素と実現へのプロセス	10
3	3つの構成要素／プロセス	12
①	つながるまち／つながる・つなげる	12
②	うまれるまち／うまれる・うみだす	21
③	そだてるまち／そだつ・そだてる	31
4	おわりに	41
	(資料編)	
1	新たな神戸地域ビジョン策定までの道のり	42
2	神戸地域を取り巻く社会環境、自然環境の変化(詳細版)	48

1 はじめに

神戸には港町として発展してきた歴史があります。平清盛が大輪田泊と呼ばれた兵庫の港を大規模修築し、日宋貿易を推し進めるとともに、短期間ではありましたが福原京として都をおきました。その後、大輪田泊は「兵庫津」と名称を変え、室町時代には日明貿易の中心地となり、江戸時代は近畿と日本海側を結ぶ北前船の発着港とされました。

1868(慶応3)年1月1日に神戸港が開港されると、外国人居留地が設けられ、様々な面で欧米の生活様式が持ち込まれました。そして、神戸は国際貿易都市として成長します。

1889(明治22)年神戸市が誕生し、1939(昭和14)年には人口100万人に達しました。太平洋戦争により人口が激減しましたが、1956(昭和31)年に再び100万人を突破すると、神戸のランドマークであるポートタワーや地下街であるさんちかタウン(現在の名称はさんちか)の完成、神戸市営地下鉄の開業、人工島であるポートアイランド、六甲アイランドのまち開きなど、ダイナミックな発展を続けました。

しかし、1995(平成7)年に起こった阪神・淡路大震災は、一瞬にして多くの尊い命を奪い、まちを破壊し、神戸の発展は停滞を余儀なくされました。創造的復興を目指すなかで幾多の困難を乗り越え、市民活動など今後を支える動きをもうみだしながら、神戸は見事に復興を成し遂げました。2006年(平成18)年には、神戸の玄関口として発展してきた神戸港沖に神戸空港が開港し、神戸と他地域をつなげる新たな玄関口ができました。

さらに、震災から20年を契機として都心部の再整備が始まっており、これからも神戸は新たな進化を続けていこうとしています。



1 これまでの神戸地域ビジョンについて

兵庫県では、従来の総合計画に代わる新たな指針として、「全県ビジョン」と「神戸地域ビジョン」を含めた7つの地域ビジョンから成る「21世紀兵庫長期ビジョン」を、平成13年に策定、平成23年に改訂しました。

神戸地域ビジョンでは「楽しいまち・神戸」を目指し、少子高齢化などの時代潮流や、県民の意識・暮らしが変化するなかで、行政主導による「計画」ではなく、県民自らが様々な主体とのパートナーシップのもと、「こんな神戸地域にしたい」という夢や、その実現に向けた道筋・取組を描いています。





これまでの「神戸地域ビジョン」が描く将来像

「楽しいまち・神戸」

～人々が集い、喜びと感動が共有できるまちをめざす～

『3つの都市像』

誰もが主役になれるまち ー市民自律都市・神戸ー

世界に挑戦できるまち ーフロンティア都市・神戸ー

感動を分かち合い、癒されるまち ーコミュニケーション都市・神戸ー

地域ビジョンを実現するためには、ビジョン策定後も、県民参画型の取組を一層深め、県民、県、市町による協働のもと、ビジョン推進の仕組みをつくることが不可欠です。

このため、地域の主要団体からの推薦や公募などにより委員を委嘱して、「神戸地域ビジョン委員会」を設置し、県民の参画と協働による取組を進めることとしました。

平成13年7月には第1期神戸地域ビジョン委員会が115名体制で発足し、令和2年4月に発足した第10期神戸地域ビジョン委員会まで延べ1,184名のビジョン委員がビジョンの実現を目指し、様々な取組を進めてきました。



(2020年4月～) 第10期神戸地域ビジョン委員の活動の様子
左から、手作りみそのみそ玉づくり、元町商店街の歴史勉強会、河川・道路のポイ捨てごみの調査

2 新たな神戸地域ビジョンの策定経緯

平成13年の策定から20年、平成23年の改訂から10年が経過し、本格的な人口減少、超高齢化、技術革新の急速な進展といった社会情勢の変化とともに、人々の暮らしや価値観も大きく転換しつつあります。このため、約30年後の2050年に向けた神戸の将来像(ビジョン)を新たに策定することになりました。



3 地域ビジョンの定義

神戸地域ビジョンとは、神戸地域が目指す将来像です。

人口減少などの社会変化の様相を地域の特性に合わせて分かりやすく「見える化」し、県民が共有できる「なりたい姿」を大胆に描き、中長期的な地域づくりの指針として、県民自らがづくり、その実現を目指すものです。

4 検討のプロセス(各会議の詳細については、資料編参照のこと)

1 新神戸地域ビジョン検討委員会

新たな神戸地域ビジョンの策定に向けて、有識者、神戸地域ビジョン委員長、地域団体の代表者、神戸市の担当者などで構成する「新神戸地域ビジョン検討委員会」を設置し、新地域ビジョン案の検討・起草を行いました。



(2020年7月)
第1回新神戸地域ビジョン検討委員会

2 県民との意見交換

県政の基本姿勢である「参画と協働」により新ビジョンの策定を進めるため、様々な形で県民との意見交換を実施し、検討委員会での新ビジョン策定の議論につなげました。

ア) 地域デザイン会議

神戸市内の大学に通う大学生と神戸市内で働く若手企業人でグループをつくって議論を行い、神戸の魅力や課題、地域の将来像のイメージを抽出しました。



(2020年9月)
第2回地域デザイン会議(企業人グループ)



(2020年10月)
第3回地域デザイン会議(学生グループ)





イ) ビジョンを語る会、県政懇話会

青年農業士や小売市場の関係者など神戸で活躍する団体やグループと神戸の将来について語り、新地域ビジョンを検討するための素材を収集しました。



(2020年10月)
ビジョンを語る会(神戸市小売市場連合会)

ウ) 未来フォーラム

1回目は、神戸地域ビジョン委員をはじめ一般県民が参加し、「人づくり」「暮らし」「自然」「交流」をテーマにグループワークを行い、2回目は様々な分野で活躍する県民が30年後の神戸の姿について意見交換を行いました。



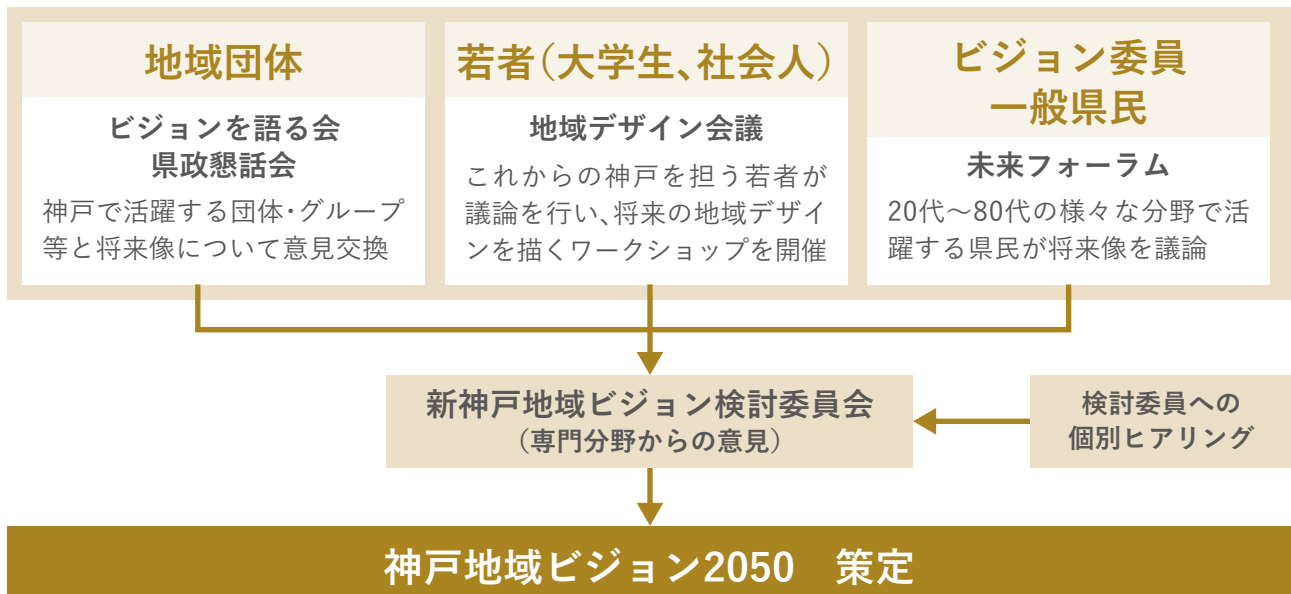
(2021年2月)【1回目】グループワークの様子



(2021年11月)【2回目】意見交換の様子

3 県民との意見交換におけるキーワードの整理と構成

地域デザイン会議をはじめとする県民との意見交換において、神戸の魅力、今後も大切にしていきたい要素や現在の課題・問題、新しい地域ビジョンに含まれるべき要素、言葉、概念について聞き取りました。それらを整理し、ビジョンの骨格を構成しました。



2 神戸地域を取り巻く状況

新しい神戸地域ビジョンを検討するにあたって、人々の意識と生活の移り変わりをとらえるための3つの視点と、神戸地域をとりまく具体的な社会環境、自然環境の変化をみていきます。

1 人々の意識と生活の移り変わりをとらえるための3つの視点

過去半世紀ほどの間に私たちの社会が経験してきた人々の意識と生活の移り変わりは、大きく分けて①ライフコース、ライフスタイルに対する価値観の変化、②地理的空間や様々な組織形態のあり方の変化、③テクノロジーの進化による様々な境界・区分の変化という3つの視点からとらえることができます。

1 「個性」を大切にする時代に

日本では高度経済成長期に「標準的ライフコース」、すなわち、学校を卒業したら会社に就職し、結婚後は男性は定年まで一つの会社で働く、女性は専業主婦として家事と育児に専念し、子どもの手が離れたらパートやアルバイトとして働くという生き方が「普通」であり「幸せ」とされてきました。また、社会制度も人々がそのような標準的なライフコースを歩むことを前提に設計されており、そこから外れることは生きづらさをもたらしました。

今日ではそのような「標準的」とされていた生き方は、数ある選択肢のなかの一つに過ぎません。多様な価値観を認め合いながら、自分らしく、やりたいことができる自由、なりたいものになれる自由を希求できる社会へと大きく動き出してきました。

2 深化した「分散」志向

ライフスタイルの多様化とともに、都会を離れて地方で豊かに暮らすことへの関心が高まるなど、人々が居住に対してもつ価値観はゆるやかに、しかし着実に変化しています。また、今日では新型コロナウイルス感染症の流行を契機としたテレワークの普及、災害時のリスク回避により、東京一極集中からの脱却の兆しもみられます。地方回帰の動きは、「効率・画一」から「ゆとり・多様」への価値観の変化とともに、その土地ならではの固有性や風土を生かした地域づくりへの志向の高まりにもつながっています。

また、様々な組織、集団における人々のつながりの形態として、権力を集中させる従来の硬直的な階層型・ピラミッド型構造から、メンバー同士がフラットな関係を保ちながら、課題に応じて柔軟にかたちを変化させることができる自律的なネットワーク型への移行がみられます。





3 「境界」の希薄化

テクノロジーの進化によって生活の様々な場面においてボーダーレス化が進み、私たちが暮らしのなかで自明なものと考えていた境界や区分が変化しています。「ワークライフバランス」とは、仕事と私生活を切り離れた上で、それらの間の最適なバランスを考えるという考え方でしたが、今日では、仕事と私生活の垣根をなくして融合させる「ワークライフミックス」「ワークライフインテグレーション」という考え方にシフトしつつあります。リゾート地などでテレワークを活用して働きながら余暇も楽しむ「ワーケーション」の普及にも、仕事とプライベート、働く場所と暮らす・遊ぶ場所といった生活空間の境界や区分の変化をみることができます。

また、CGによる合成された仮想物体を現実世界に反映させるAR(Augmented Reality)技術の進歩によって、仮想空間と現実空間の間にあった境界も曖昧なものになりつつあるほか、人間とAI(人工知能)が相補的に役割を担いながら共存することが模索されています。

さらに、モノや場所、スキルを多くの人と共有して利用するシェア経済の市場の広がり、所有のボーダーレス化を通して社会経済のあり方を大きく変えていく可能性をもっています。



2 神戸地域をとりまく社会環境、自然環境の変化

人口変動、経済構造の変化、グローバル化の進展、地域のつながりの変化、そして地球温暖化に代表される気候変動といった社会全体における様々な変化は、神戸地域の現在、そして今後に対しても大きな影響を与えています。これらは、いずれも放置すれば今後さらに深刻な課題となっていくことが予想されますが、その変化に対して適切に対応することができれば、地域の可能性を広げる側面ももっています。

2050年に神戸地域がこうなっていきたいという姿を描くにあたっては、刻々と変化する社会環境、自然環境の状況を十分に踏まえ、様々な観点から不確実性の高まりに対応する必要があります。
(注)ここでは概要のみを記載しており、詳細については資料編を参照。

1 人口変動 ～減少する人口、少子高齢化、若い世代の流出～

将来推計によると、神戸地域の人口は、2050年頃には2020年に比べ約4分の3の水準になると予測されています。また、現状では、全国的な傾向と同様に「少子高齢化」が進むとともに、若い世代の流出も拡大しています。これらは都市の活力・魅力の減退、生活利便性の維持にかかるコストの増加をもたらしますが、一方で、地域の人口規模や年齢バランス、住民のニーズに合わせて、神戸に住む人にとって暮らしやすいまちづくりを進めていくきっかけとしてとらえることもできます。

2 産業構造・就業構造の変化 ～サービス産業へのシフト、非正規雇用の増加～

神戸は造船業や鉄鋼業などのいわゆる重厚長大産業とともに発展してきましたが、現在では第3次産業の割合が大きくなっており、サービス産業へのシフトが一層進んでいます。就業面では、パート・アルバイト等の非正規雇用労働者数が増加し続けており、若い世代を中心に雇用の流動化が進んでいます。雇用の流動化は労働市場の活性化を促し、効率的な企業成長と労働者自身のスキルアップをもたらすことが期待されます。一方、非正規雇用の増加は人々の生活を不安定なものにし、特に若年層では長期的なライフコースを見据えた生活設計を困難にする可能性があります。

3 多文化共生の進展 ～国籍の多様化、増える外国人労働者～

早くから世界に開かれた神戸には、多くの外国人が居住していますが、ベトナム国籍の割合が急増するなど、在留外国人の国籍が多様化しています。また、神戸市における特定技能在留外国人数は増加傾向にあり、今後外国人労働者が一層増えることが見込まれます。神戸を訪れ、住み、働く外国人が増えていくなかで、神戸がグローバル都市として魅力的な地域であるためには、国籍や言語、文化が異なる多様な人々との間で、お互いを地域社会のメンバーとして認め合い、支え合う仕組みをつくっていくことが必要です。





4 地域のつながりの変化 ～多様な人や組織がつながる社会へ～

人口減少や近所付き合いの希薄化により、これまで地域を支えてきたコミュニティが衰退しつつあるなか、地域団体においても役員の高齢化、後継者不足等、課題は多くあります。しかし、神戸地域では、阪神・淡路大震災が発生し、「ボランティア元年」と呼ばれた1995年から25年以上を経た現在においても、市民活動、地域活動への関心は高くなっています。さらに、他地域に比べ多くの中間支援組織が活動しています。これらを介した多様な主体間のつながりと協働が、時代に即した新しいかたちの地域コミュニティを創造することが期待されます。

5 自然環境との共生のあり方の変化 ～新たな「農都」、温暖化・災害への対応～

神戸は大都市でありながら、身近に山や海といった自然を感じることができます。また、農業産出額をみると、県内第2位(2019年)、近畿では第4位(同)であり、全国でもあまり例をみない「農都」としての魅力があります。

一方、地球温暖化による風水害の激甚化や南海トラフ地震の脅威についても考えなければなりません。地球温暖化については、神戸においてもカーボンニュートラルに向けた水素活用など温室効果ガス削減の試みが始まっていますが、これからの社会を考えるうえで喫緊の課題となっています。また、防災については、阪神・淡路大震災を教訓に先進的な取組を進めてきましたが、震災から27年を数える今、人々の防災に対する意識は決して高いとはいえず、地域としての防災力は兵庫県の他地域に比べても弱くなっています。いざというときに頼ることができるつながりをどのようにつくり、維持していくかが課題です。

3 総括

このように神戸地域をとりまく社会環境、自然環境は大きく変化しています。人口減少と少子高齢化、産業構造の変化、雇用の流動化、地域のつながりの変化、多文化共生社会への対応、地球温暖化への対処や災害への備えといった課題は、いずれも今後の社会における不確実性の増大に対して、地域として長期的な視野にたって対応を考えていくことの必要性を示しています。

そこで、新しい神戸地域ビジョンでは、これら社会環境、自然環境の変化に対して、どのように対応していくことが県民にとって望ましい地域になることにつながるのか、神戸の豊かさ、可能性を次代に引き継ぐために自分たちでどのような地域をつくっていくのかを描いていきます。



3 神戸地域の目指すビジョン

ビジョンは地域が目指す姿、なりたい姿と、それを構成する要素、そして将来実現しているであろう姿へ至るプロセスによって組み立てられます。

社会が大きく変化していくなかで、神戸地域を目指す姿を考えるためには、神戸に暮らす人々が大切にしたいと思っている「神戸らしさ」、30年後にもあり続けてほしい「神戸の良さ」とは何かを踏まえることが求められます。

「30年後、神戸はどうあってほしいか」「理想とする神戸の将来像とはどのようなものか」をテーマに行われた「地域デザイン会議(学生グループ/若手企業人グループ)」、「ビジョンを語る会」、「神戸地域未来フォーラム」など様々な県民との意見交換の場において得られた意見、そして新地域ビジョン検討委員が提起した新しい地域ビジョンをめぐるキーワードをまとめると、以下のようになります。



キーワード

楽しむ、多様性、挑戦、自然とまち、選択肢の多さ

- ・人々が神戸で幸せに、神戸がよいところだと思って暮らしていることが人を引き寄せる
- ・神戸の魅力は、暮らす人たちがまちの生活を楽しんでいるところにある
- ・非常に多様性があり、山があつて、海があつて、そこにまちがしっかりとある
- ・日常の中に、少しの特別感を作り出すことがうまい地域
- ・多様な自然とまちがあり、ゆとりのあるライフスタイル・生活を実現できる
- ・それぞれの価値観に基づいて多様な挑戦ができる
- ・神戸は多文化であり、あらゆる価値観をお互いに認め合つて、受け入れる寛容なまち
- ・神戸ならではの環境を利用して、色々な生活様式を提案できるモデル地域のような役割を果たすことができる
- ・自分のライフスタイルで何が必要か考えた時、山が好き、下町がいいなど様々なニーズに対して、神戸は選択肢が多い

価値意識の変化

- ・「個性」を大切にする時代に
- ・深化した「分散」志向
- ・「境界」の希薄化

社会環境の変化

- ・人口変動
- ・産業構造、就業構造の変化
- ・多文化共生の進展
- ・地域のつながりの変化
- ・自然環境との共生のあり方の変化

目指す姿

みんなの希望にフィットするまち・神戸

つながるまち

うまれるまち

そだてるまち





1 目指す姿

地域が豊かになるということは、そこに住んでいる人々の希望がかなう、みんなが幸せになるということではないでしょうか。神戸は、都市の成り立ちにおいて歴史的伝統から解放されていたゆえの外向性と進取の気性、震災の経験によって培われた支え合いの精神・市民力を併せ持っています。また、海のそばで、山に近い場所で、適度な都会・田舎で暮らしたい、という人々のライフステージやライフスタイルによって変わる「その人に合った豊かな暮らしができる環境」がすべて揃っています。暮らす、働く、楽しむ……どれをとっても、神戸には多様な選択肢があり、一人ひとりが自分に合ったものを選ぶことができるという良さがあります。

神戸に暮らす私たちが協働しながら、地域をより豊かにすることで、みんなが希望を見だし、その希望に寄り添い、包み込むまち、みんなで希望をかなえるまち、「みんなの希望にフィットするまち・神戸」を実現していきます。

2 「目指す姿」の構成要素と実現へのプロセス

では、「みんなの希望にフィットするまち」とは、具体的にどのようなものでしょうか。また、私たちはその実現に向けて、何をしていくべきでしょうか。神戸地域の目指す姿と、それを実現するためのプロセスは、「つながる」「うまれる」「そだてる」という3つのキーワードによって表すことができます。

ビジョンを構成する3つの構成要素

「つながるまち」「うまれるまち」「そだてるまち」

ビジョンを実現するための3つのプロセス

「つながる(つなげる)」「うまれる(うみだす)」「そだてる(そだつ)」

まず、「みんなの希望にフィットするまち・神戸」という私たちが願う30年後の地域の姿は、以降でそれぞれ紹介していくような「つながるまち」「うまれるまち」「そだてるまち」という3つの特徴によって構成されます。神戸に暮らす人々や神戸にある豊かな資源が互いにつながることで、そのつながりから新しいアイデアや人々を幸せにするビジネスが次々と生まれること、そしてその仕組みをみんなで大切にそだてていくまちになることが、神戸地域が目指す30年後の姿です。

また、その「目指す姿」を実現するためのプロセス、30年後の神戸というゴールを達成するための手段も「つながる(つなげる)」「うまれる(うみだす)」「そだてる(そだつ)」という3つのアクションから考えることができます。たとえば、神戸に関わる人、資源を「つなげて」、新しいものを「うみだし」、それを「そだて」ていく。あるいは、神戸に固有の歴史と文化、価値を30年後に「つなげる」、今を起点としてこれから新しい歴史と文化を「うみだす」、そして長く「そだてる」。そのために、神戸ならではの魅力をみんなで見つめ直して、磨きをかけ、共有していくことをビジョンとして提案します。



神戸地域ビジョン2050のコンセプト

つながるまち

豊かな自然環境を次代につなげる
都市と自然がシームレスにつながる
世界とつながる
歴史と文化を未来につなげる



そだてるまち

次の世代、次の社会の担い手をそだてる
安心・安全な暮らしを守る地域のつながりを
そだてる
地域の担い手をそだてる
多様な主体がともに社会をそだてる

うまれるまち

新しいアイデア、新しいビジネスがうまれる
自分らしいライフスタイルがうまれる
新しい共生のかたち がうまれる
シビックプライドがうまれる





3 3つの構成要素/プロセス

1 つながるまち／つながる・つなげる

ア) 豊かな自然環境を次代につなげる

資源を循環させて活用することで、豊かな自然を守り、脱炭素社会のもとで環境と調和した暮らしを次代に引き継ぐ



イ) 都市と自然がシームレスにつながる

都市と自然が今よりも近い関係になること、生産者と消費者が顔のみえる関係になることで、神戸の豊かさを実感できる

ウ) 世界とつながる

豊かな自然と暮らしやすいまちの近さ、外向性と進取の気性といった神戸の魅力を世界に発信する

エ) 歴史と文化を未来につなげる

神戸に固有の歴史と文化、風土を、普段の生活のなかで、あるいは学びの場や観光を通して感じるとともに、未来に伝える

ア) 豊かな自然環境を次代につなげる

● 環境に優しい暮らしを広げる

自分たちの地域のこれからを考えながら、美しい山や海、川、きれいな空気といった豊かな環境を守るためにできることを選んでいます。たとえば普段の生活のなかで節電を心がける、暮らしのなかで発生する廃棄物を再利用して農産物の生産に役立てる。こうした実践を通して環境への負荷を減らすことで、よりよい地域環境が守られています。

● 地域のなかで資源を有効に循環させる

企業や組織を含めた地域社会の担い手が、脱炭素化に対応する製品の生産や購入、自然環境と調和した再生可能エネルギーの活用、ゴミの削減やモノの再利用など、環境に配慮した行動を心がけています。社会を構成する様々な主体による環境に配慮した行動が互いにつながることによって、大切な資源が地域のなかを有効に循環する経済システムが広がっています。



3 神戸地域の目指すビジョン

県民の意見

- ・北区にあるような自然は残していきたい(第1回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・自然の魅力は、お洒落なまちといわれる神戸にとっては、良いギャップ(第1回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・都市を積極的に緑化しているところが神戸で好きなところ(第1回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・新幹線が停車する大きな駅の下に、遊べるような綺麗な川が流れていると思うと、やはり自然が豊かなことの象徴だと思う(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・畜産関係の尿を下水に処理してもらうことで、糞尿の量を抑えることができ、海の栄養補給をすることができるので、畜産業界だけでなく水産業界にも良い影響がでるのではないか(ビジョンを語る会(農業))
- ・下水道から出たリン酸を抽出してできた肥料を使用し、花をつくり、市内に出荷している。花だけでなく、野菜でも同じことを行っていくと、神戸の中で循環ができると思う(ビジョンを語る会(農業))

参考

兵庫のゆたかさ指標(神戸地域)

項目	2013年	2021年	2021年(全県)
ごみの分別やりサイクルに協力している人の割合(%)	92.1	94.2	91.7
住んでいる地域の自然環境は守られていると思う人の割合(%)	57.9	45.3	47.5





ビジョンの種、ビジョンの芽①

こうべ再生リン(神戸市)

神戸市では、下水中に含まれているリンを効率的に回収し「こうべ再生リン」と名付け、資源の有効利用を進めています。「こうべ再生リン」は、肥料の原料になるとともに、「こうべ再生リン」単体でも肥料として利用することができます。神戸市は、民間企業やJ A兵庫六甲と協力し、様々な作物に利用できるように、「こうべ再生リン」に窒素やカリウムなどの肥料成分を加えた「こうべハーベスト」肥料を開発しました。この肥料は、民間企業が製造し、J A兵庫六甲が販売しています。「こうべハーベスト」肥料は、「こうべ旬菜」等の野菜や小学校の給食用米の栽培に使用されており、神戸市内で資源の循環がうまれています。



こうべ再生リン



こうべハーベスト10-6-6-2

【こうべハーベスト10-6-6-2】

こうべハーベスト10-6-6-2は、こうべ再生リンを20%含む園芸用肥料です。キャベツやブロッコリーなど様々な農作物の試験栽培で良好な成果を収め、神戸のブランド野菜「こうべ旬菜」等の野菜栽培に使用されています。



こうべハーベスト水稲一発型

【こうべハーベスト水稲一発型】

こうべハーベスト水稲一発型は、こうべ再生リンを15%含んでおり一度散布するだけでお米の栽培ができる追肥不要の水稲用肥料です。試験栽培と肥料改良を重ね、全量が市内で生産される給食用米「きぬむすめ」の栽培に使用されています。

ビジョンの種、ビジョンの芽とは

ここでは「どのような活動が広がれば、この将来像に近づくことができるのか」という方向性を示すものとして、「このような試みやチャレンジが日常の風景になってほしい」という思いのもと、現在、神戸地域で行われている事例を紹介します。



イ)都市と自然がシームレスにつながる

● 地理的・空間的に自由な移動・交流ができる

物理的な距離を意識することなく、神戸にある豊かな自然と暮らしやすいサイズの市街地の間で誰もが気軽に移動や交流を楽しんでいます。

● これからの「農都」：農林水産業と都市生活の豊かな関係を深める

都市で暮らす人が生産物を消費するだけではなく、たとえば農業や漁業を働く場の1つとして選び、生産者との交流の中で生産に関わり、そこから新たなビジネスにつなげていくなど、産業としての「農」が発展した新しい「農都・神戸」を築いています。



● 県民の意見

- ・実際の距離よりも、都市部と田園部の距離が開いている気がする(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・都市部と田園部が物理的な距離を意識しないですむような、境目のない直結した関係になってほしい("神戸"は都市部だけではない)(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・都市部と田園部が交流する機会を増やしていきたい(神戸地域未来フォーラム)
- ・都市部と田園部をつなぐ交通を含め地域内の交通アクセスに課題を感じる(委員ヒアリング)
- ・都市部と田園部の心理的な距離は「知らない、分からない」ことが原因だと思うので、まずは知ってもらう活動が必要(委員ヒアリング)
- ・農業者からみても、神戸は消費者と距離が近いところが魅力(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・農業では他業種では受け入れにくい雇用形態が可能なので、そこを生かして都市部と田園部の架け橋になることができるのではないかと(委員ヒアリング)
- ・神戸には都市部と田園部両方のいいところがあるので、両方の二重の生活ができるのではないかと(神戸地域未来フォーラム)

● 参考

兵庫のゆたかさ指標(神戸地域)

項 目	2013年	2020年	2021年
この1年間に、仕事やレジャーを問わず、森や山に入ったことがある人の割合(%)	47.0	37.4	38.7
六甲山系を身近に感じる機会(山登り、イベント、六甲山の施設利用等)がある人の割合(%)	30.7	33.3	34.9





ビジョンの種、ビジョンの芽②

農業を身近にする活動(JA兵庫六甲)

神戸の子どもたちに農業を身近に感じてもらえる活動として、学校給食に使用される野菜の収穫体験のほか、職員による農畜産物の魅力や地域農業についての小・中学校向け出前講座、支店や直売所での職業体験「トライやる・ウィーク」の受け入れを実施しています。



野菜の収穫体験



小・中学校向け出前講座

ビジョンの種、ビジョンの芽③

ROKKONOMAD(神戸市)

神戸市では、六甲山上スマートシティ構想のもと、山上のビジネス交流拠点となる「共創ラボ」のプロジェクトを進めており、森の中にある泊まれるシェアオフィス「ロコノマド(ROKKONOMAD)」を開設しています。

まちの喧噪から離れ、自然豊かな場所で創造的な仕事に集中し、まちに戻ろうと思えばすぐに戻れる、安心できる距離感。山とまちが近い神戸の魅力を活かした取組となることが期待されます。



ROKKONOMAD公式ウェブサイト
(<https://rokkonomad.org/>)

ウ)世界とつながる

● 神戸の豊かさと固有の文化を発信する

神戸に暮らす人々がそれぞれのやり方で、神戸がどんなまちなのか、どんな暮らしがあって、どんな人たちがいるのかを発信していくことによって、神戸ならではの良さが地域の内外に伝わり、人を惹きつけることにつながっています。

● 神戸を訪れたいくなる、神戸で働きたいくなる人を増やす

観光、ビジネス、移住、様々なかたちで神戸以外の地域、国外とのつながりが広がることで、神戸に興味を持つ人、実際に訪れる人、働く人が増えています。そのつながりを通して神戸の魅力が発信され、新たな人を呼び込み、地域の活力が高まっています。



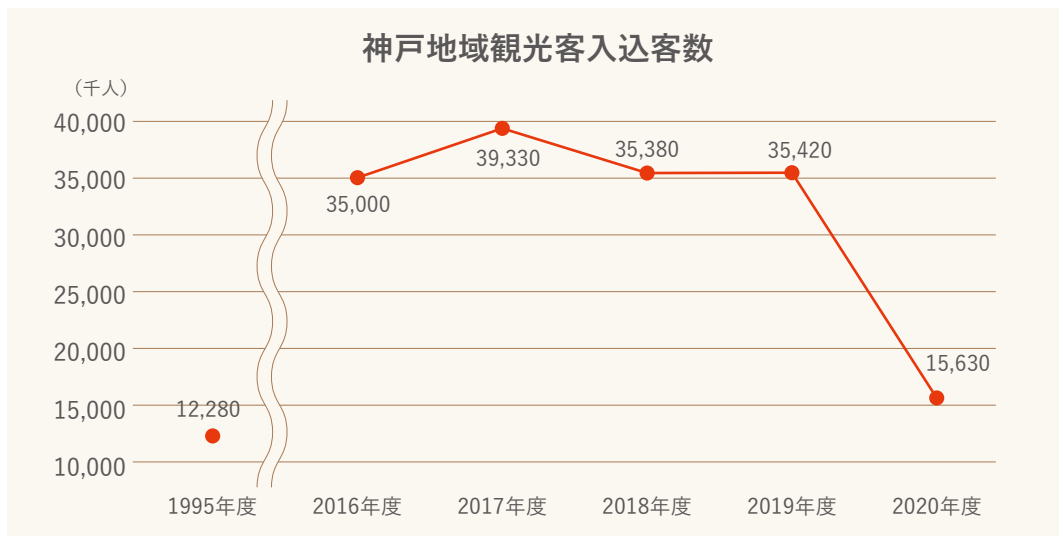
県民の意見

- ・地域を豊かにするためには、よりよい情報の出し方や発信の仕方を、考えていかないといけない(第1回検討委員会)
- ・地元の魅力は感じるだけでなく、他の人に伝えていかなければいけない(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・国内、海外問わずに、暮らすのにちょうどいいまちを目指していけたらいいのではないかと(第1回検討委員会)
- ・異文化が溢れる国際色豊かなまち、より多様性を認め合う暮らしやすいまちにしたい(第1回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・人々が神戸で幸せに、神戸がいいところだと思って暮らしていることが人を引き寄せるといふ発想にする必要がある(神戸地域未来フォーラム)
- ・地域や社会の根付いた持続可能な観光が大事なので、外から人を呼び込むことよりも、まずはその場所で幸せになる人たちを考えていくことが必要(委員ヒアリング)
- ・関係人口を増やすことで(観光・ふるさと納税)、移住しなくても神戸の地域課題について関係を深めていってもらえればいい(委員ヒアリング)





参考



出典：県観光企画課「兵庫県観光客動態調査報告書」

ビジョンの種、ビジョンの芽④

KOBE PR アンバサダー(神戸市)

市内在住や在学、在勤の外国人を大使として任命し、神戸の暮らしについてSNSを通じて多言語で発信してもらう事業で、2016年度から開始されました。酒やスイーツといった生活文化や、神戸で過ごして見つけた地域資源など、外国人ならではの視点に立った神戸の魅力を、公式SNSアカウントでシェアしています。日々の暮らしを発信することで、地域内外からの神戸への関心を広げ、神戸を訪れたい人の増加に結びつくことが期待されます。



フェイスブック (<https://www.facebook.com/KobePRA/>)

インスタグラム (https://instagram.com/kobe_pra/)

ツイッター (https://twitter.com/Kobe_PRA/)



エ)歴史と文化を未来につなげる

● 学びのなかで自分たちのまちとつながる・まちを知る機会をもつ

あらゆる世代の人々が、学校で、あるいは生涯学習を通して地域の歴史や文化に対する理解を深めるなど、学びのなかで自分たちが住んでいるまちとつながる、まちを知ることができる機会が増えています。

● 地域資源の保護・活用を通してまちの今までとこれからを考える

身近な文化財、地域の歴史を語る貴重な財産を保護するだけでなく、生活のなかで実際に利用することを通して、自分たちのまちの今までとこれからを考える活動が盛んに行われています。また、地域の歴史と文化を将来につなげる活動が広がることで人々の間に新しいつながりもうまれています。



県民の意見

- ・小さいときから神戸ならではの文化や歴史に触れる機会を増やす必要がある(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・地元の文化性や歴史性が凝縮されたものを大切に、個性豊かな地域になってほしい(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・地域の祭りにも、その地域の個性が残っているので、当初の思いを感じられるような形として残していくとよいのではないかと(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・歴史はまとめるだけでなく、教えていくことが重要(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・神戸港開港150周年を迎えて、少しずつ歴史を語るができる段階になってきており、これから神戸の人たちが歴史を楽しみ、愛でることができるよう歴史を振り返る機会があるといい(委員ヒアリング)
- ・子どもだけでなく大人も歴史を学ぶことができる場や機会があるといい(委員ヒアリング)
- ・範囲を決めて、そこに蓄積する資源や歴史を深掘りすることでアイデアを出し、これまでの歴史を大事にしながら、そこに新しい要素をどう入れていくかを考えると面白い(県庁ビジョン課ヒアリング)





参考

神戸市内の日本遺産	神戸歴史遺産
兵庫津 【荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～】 灘五郷 【「伊丹諸白」と「灘の生一本」 下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷】	・六甲ケーブル六甲山上駅 ・湯女を起源とする有馬芸妓文化 ・「武井家文書」及び「武井家伝来絵画資料(粉本)」 ・安德帝内裏跡伝説地 ・宮野尾神社の獅子舞

※神戸歴史遺産

地域で大切にしてきた伝統行事や地域の拠り所となっていた建造物などを認定することで、より多くの歴史遺産を保護することを目的とする神戸市の制度。

ビジョンの種、ビジョンの芽⑤

神戸地域ビジョン委員の活動 ～歴史・文化発見隊～

改定前の神戸地域ビジョンが描いた将来像「楽しいまち・神戸」を実現するため、ビジョン委員が多彩な実践活動を展開してきました。

実践活動グループの一つである「歴史・文化発見隊」では、神戸の三大土木遺産をめぐるツアー(2014年度実施)、神戸港周辺の歴史スポットをめぐるツアー(2016年度実施)、国宝を有する太山寺、行基開山の性海寺等をめぐるツアー(2019年度実施)を企画し、歴史・文化遺産など地域資源の再発見やその魅力を発信する活動に取り組みました。



国宝建造物 太山寺(神戸市西区)

2 うまれるまち／うまれる・うみだす

ア)新しいアイデア、 新しいビジネスがうまれる

多様なアクターが参加した柔軟でしなやかなつながりによって、新しいアイデアに基づく起業や人々の幸せに貢献するビジネスが実現する



うまれるまち

ウ)新しい共生のかたちがうまれる

すべての人を社会のメンバーとして受け入れて包み込むまちになることで、誰一人取り残さない共生社会がみえる

イ)自分らしいライフスタイルがうまれる

様々なライフコース上の場面でうまれる生活ニーズを一人ひとりが希望するライフスタイルに合わせながら解決できる

エ)シビックプライドがうまれる

住む人みんなが神戸のことを、地域のことを自分のこととして考えることができる、神戸ならではのシビックプライドがもてる

ア)新しいアイデア、新しいビジネスがうまれる

● アイディアをかたちにできる、起業できる

神戸が新しいアイデアを実験する、実践する、実装するチャンスにあふれ、やる気さえあれば起業できるまちとなり、人々の幸せに貢献するビジネスが地域のなかにたくさんうまれています。

● 多様なプラットフォームから新しい事業がうまれる

異なる業種や経歴など多様なバックグラウンドをもった人たちが出会えるつながりがまちのあちこちでできることで、思いもしなかったアイデアが生まれ、新しいアイデアの実現がスムーズに進んでいます。





県民の意見

- ・新しいテクノロジーを活用し、先進的な取組をする都市でありたい(委員ヒアリング)
- ・神戸はそれぞれの価値観に基づいて多様な挑戦ができる(第1回検討委員会)
- ・中小企業の活性化のため、イノベーションに挑戦し、経営革新に積極的に取り組む企業を創出し、雇用をうみだす必要がある(第1回検討委員会)
- ・新たなサービスや商品作りに挑戦ができる環境をそだてることが大事(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・ネット上を含め、各企業が強みや弱み、問題点をオープンにする場をもうけ、自然発生的に連携がうまれる仕組みをつくる必要がある(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・共通の目標を立てて取り組み、異業種の間団体同士で共有してブラッシュアップするような業種横断的なタスクフォースがあると面白い(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・企業間連携には、コーディネートできる人、他社の良さを引き出せる人の発掘や育成が大事(委員ヒアリング)
- ・マッチングするためには、どちらかが受益して、どちらかが施すという意識がないことが大事ではないか(委員ヒアリング)

参考

開廃業率の推移

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
兵庫県	開業率	6.44%	6.44%	4.50%	4.54%	5.24%
	廃業率	3.61%	3.24%	3.15%	3.27%	3.07%
大阪府	開業率	6.67%	6.43%	4.57%	4.53%	5.41%
	廃業率	3.66%	4.20%	3.78%	3.61%	3.02%
全国	開業率	5.60%	5.55%	4.41%	4.25%	5.11%
	廃業率	3.52%	3.49%	3.47%	3.43%	3.25%

出典：厚生労働省「雇用保険事業統計」



ビジョンの種、ビジョンの芽⑥

Be Smart KOBE(神戸市)

最先端技術やデータを有する事業者からの提案を募集し、神戸市が市内での技術実証・実装を支援するプロジェクト。六甲ケーブルで通学する六甲山小学校の児童等を対象とした、顔認証技術の活用による見守りサービスの実証など、テクノロジーを活用して地域課題を解決することを目指しています。



顔認証で登下校チェックする様子

ビジョンの種、ビジョンの芽⑦

SDGs CHALLENGE(兵庫県・神戸市・UNOPS)

兵庫県・神戸市とUNOPS(国連プロジェクトサービス機関)が連携して、世界規模のSDGs(持続可能な開発目標)課題解決に果敢に挑むスタートアップの事業構築や海外展開をサポート。神戸から社会変革をうみだす新たなイノベーションを創造することを目指しています。



起業プラザひょうごでのイベントの様子



イ)自分らしいライフスタイルがうまれる

自分らしいライフスタイルを実現できる

学びや子育て、仕事などライフステージのそれぞれの場面で、自分が何を大切にして、どこに自分らしさを発揮したいか、そういった生き方への希望やこだわりを、一人ひとりが自ら選択し、かなえています。

様々なライフコースのなかで人々の希望がかなう

様々なライフコースを歩むすべての人の仕事と生活のバランスと調和、ケアのあり方、地域や社会との関わり方、これらに対する人々の希望がかなうことで、幸せを実感できるまちがつけられています。

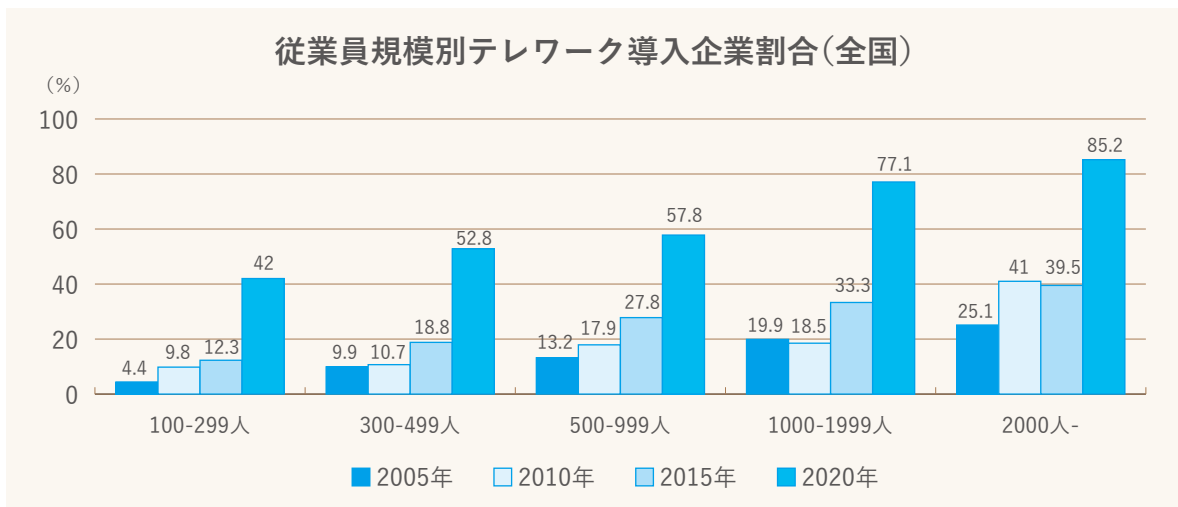


県民の意見

- ・この地域で暮らす良さそのものを見直すことが、神戸の強みになる(委員ヒアリング)
- ・コロナにより、自分なりの生き方について考え出した人が多いと感じる(ビジョンを語る会(新長田で活動する若手))
- ・コロナ禍で、働き方が見直されてきている状況で、リモートワークなど、働く場所を選ばないことで、田園部で生活をしながら、都市部の仕事をできる環境が整いつつある(第1回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・ライフスタイルの多様化により、自分にとって何が必要なのか、どんな生活をしたいかという基準で住む場所を選んでいるが、神戸は選択肢が豊富のため、いいこと取りができる魅力があるのではないか(ビジョンを語る会(新長田で活動する若手))
- ・色んな生活様式を提案できるモデル地域のような役割を果たすこともできるのではないか(第2回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・平日は好きなところに住んで、週末は便利なところへ遊びに行くということもスタンダードになるかもしれない(委員ヒアリング)
- ・テレワークを中心にゆったりとした暮らしの時間配分ができ、地域の多様性をうまく使った多様性のある暮らしの追求がされている地域であってほしい(委員ヒアリング)



参考



出典 総務省「通信利用動向調査」より神戸県民センター作成

ビジョンの種、ビジョンの芽⑧

テレワークなど柔軟な働き方の選択(ネスレ日本株式会社)

働く時間と場所を柔軟に選択可能にするために、社外勤務制度を2016年より導入しました。他にも、固定電話をスマートフォンに切り替えることで、社外での内外線の受発信を可能としたテレワーク環境を推進しているほか、営業部門においては直行直帰による通勤時間の削減や、外出先の待ち時間等でも業務が可能な環境を実現する「モバイルセールス」制度を導入しています。また、家族の介護のための休業にも利用可能な積立年次有給休暇制度など育児・介護サポートも充実させており、2015年には兵庫県で初めての「プラチナくるみん」の認定を受けています。

※くるみん認定・プラチナくるみん認定

厚生労働省が一定の基準を満たした企業に対し「子育てサポート企業」として認定する制度です。「くるみん認定」を既に受けた企業のうち、さらに高い水準の取組を行う企業は「プラチナくるみん認定」を受けることができます。



ウ)新しい共生のかたちが生まれる

すべての人が社会のメンバーになる

神戸には様々な異なる文化を受け入れながらまちをつくってきた歴史があります。こうした土壌のうえに、様々なルーツを持つ人々を短期的に地域に受け入れる、生活を支援するだけでなく、長く共に地域で学ぶ、働く、暮らすメンバーとして認め合い、支え合うことを通して、多文化共生が実現しています。

互いに尊重しあい、共に生きる

お互いの性別や障がいの有無、国籍、宗教、文化の違い、性的指向・性自認を尊重しあうとともに、社会的弱者、あらゆるハンディキャップを抱えた人々を地域から孤立させることなく、誰一人取り残すことなく共に暮らしています。



県民の意見

- ・他国のルーツを持つ人たちが神戸の住民として定着し、神戸がふるさとになる環境に変化している(第3回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・国籍だけでなく多様な生き方をしている外国人が神戸に増えている(委員ヒアリング)
- ・支援してあげるだけでなく、外国人の子どもを、地域に貢献できる人材としてそだてていかないといけない(委員ヒアリング)
- ・新たな国際社会になったときに、外国人を地域にどう受け入れるのが課題になってくるのでは(委員ヒアリング)
- ・誰も取り残されない社会にするためには、各ターゲットに対するアクションを地道にやっていくことが必要(第3回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・平時・非常時関係なく、いつでも困っている人にアプローチできる人・場・仕組みがある地域であってほしい(委員ヒアリング)
- ・神戸の歴史である生協や震災の経験が背景にあるならば、人のつながり方、ゆるやかに支え合うことは今後も残っていてほしい(委員ヒアリング)



参考

兵庫のゆたかさ指標(神戸地域)

項 目	2013年	2020年	2021年
外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合(%)	13.8	39.5	32.9
住んでいる地域は高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合(%)	60.6	57.2	51.1
住んでいる地域は障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合(%)	33.3	31.5	28.8
住んでいる地域では心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合(%)	17.9	32.6	27.5

ビジョンの種、ビジョンの芽⑨

こうべ子どもにここ会

外国人の子ども向け学習教室。多様な文化や社会背景をもった子どもたちを対象とした日本語・教科・母語学習支援や、学校を含む生活面でのサポートを通して居場所づくり等に取り組んでいます。



日本の文化体験学習



放課後日本語教室



ビジョンの種、ビジョンの芽⑩

のびやかスペースあーち

2005年に神戸市と神戸大学の連携協定に基づいて灘区に開設され、「子育て支援をきっかけにした共に生きるまちづくり」を理念に運営しています。

2017年からは学習支援、子ども食堂、居場所づくりを一体化したプログラム「よる・あーち」を展開。金曜日の「夜」に、障がいのある子どもや生きづらさを抱えた青年など多様な人たちが「寄る」ことで、プログラムを通して利用者が互いの課題を共有し、学び合っています。「誰も取り残さない」というコンセプトを共にし、「自分ならではのビジョンで歩む生き方」をサポートする取組を続けています。



エ)シビックプライドがうまれる

地域のことを「自分たちのこと」として考える

神戸に暮らす誰もが、住んでいる地域に愛着と誇りをもち、これからの神戸を自分のことのように考え、これからの神戸を自分たちでつくっていくという気持ちがうまれることで、神戸の魅力がもっと高まっています。

神戸のもつブランド、地域がもつ価値を再発見する

神戸に暮らすことの良さ、神戸がもつほかの土地にはない魅力を見つける、改めて気づききっかけを普段の生活のなかにつくりながら、地域がもつ価値や、その価値をどのように生かしていくかを考えて行動しています。

県民の意見

- ・神戸の魅力が聞かれたときに、具体的なものが挙がってきにくいので、神戸の魅力を実際に肌で感じる機会を増やすことが大事(第2回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・まず県民自身が神戸の魅力に気づき発信していくことが重要(第3回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・地域の子どもたちが、地域や地域の産業に誇りを持つきっかけ作りが、この先の20年、30年先につながっていく(第2回地域デザイン会議(若手企業人グループ))
- ・デザインやアートの地産地消として、神戸の案件は神戸にいるクリエイターで賄っていききたい(ビジョンを語る会(新長田で活動する若手))
- ・神戸は兵庫のゲートシティでもあるが、瀬戸内のゲートシティでもあると思う(ビジョンを語る会(新長田で活動する若手))
- ・神戸のライフスタイルをみると、日常の中に少しの特別感を作り出すことがうまい地域(委員ヒアリング)

参考

兵庫のゆたかさ指標(神戸地域)

項目	2013年	2020年	2021年
住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合(%)	67.5	70.5	67.0
お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合(%)	44.7	55.2	54.2



ビジョンの種、ビジョンの芽⑪

URBAN PICNIC(神戸パークマネジメント社会実験実行委員会(※))

市中心部にある東遊園地の可能性を広げるため、市民有志が実行委員会を組織し、公園で過ごすアウトドアリビングやファーマーズマーケットの開催など、様々なプログラムを実施する社会実験を行いました。社会実験の結果がグラウンドの芝生化や再整備計画の内容に取り込まれ、都心と自然を同時に楽しむ神戸らしいライフスタイルの可能性を広げています。



URBAN PICNIC公式ウェブサイト(<https://urbanpicnic.jp/>)

※2015年 神戸パークマネジメント社会実験実行委員会・神戸市

2016年～ 一般社団法人リバブルシティイニシアティブ・神戸市



3 そだてるまち／そだつ・そだてる

ア) 次の世代、次の社会の担い手を そだてる

2050年、そしてさらにその先の社会と神戸を担っていく人々をそだてていく仕組みや工夫を考える

イ) 安心・安全な暮らしを守る地域の つながりをそだてる

神戸が、子どもから高齢者まですべての人にとって居心地の良い場所に、安心できる場所になるような地域のつながりを広げる



ウ) 地域の担い手をそだてる

地域に関心をもつ人を実践的な活動に導くことを通して、世代を超えた多くの人々が地域の課題の解決、支え合いを担っていく

エ) 多様な主体が共に社会を そだてる

これまで育まれてきた市民活動、災害への備え、利他の精神を次世代に引き継ぎ、新しいメンバーを受け入れることを通して公共の担い手を増やす

ア) 次の世代、次の社会の担い手をそだてる

子どもたちが地域と関わる居場所をつくる

地域の人が講師となって授業をしたり、放課後に宿題をみたり一緒に遊んだりするほか、子どもたちが祭りの準備や清掃活動といった地域の仕事を手伝えることを通して自分たちが住んでいるところに興味をもつ機会が増えています。

神戸だから学べることを大切にする

神戸は国際色豊かな都市的環境と海も山も近くにある豊かな自然環境のなかに学びの場があります。また、震災の経験と教訓を活かして作り上げてきた防災教育は、この地域だからこそ深化してきました。どこでも学べるだけでなく、神戸だから学べることを大切にするこことでこれからの社会の担い手がそだっています。





県民の意見

- ・人とのつながりが学校で留まってしまっており、地域とつながっていない感じがする(第2回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・神戸で子どもをそだてたいと思えるまちにしたい(第2回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・地域社会教育は学校の隙間を担うものであったが、地域活動が弱くなってきており、今後は学校と連携しながら青少年を見守り、成長過程に寄り添うことが大事(委員ヒアリング)
- ・居場所づくりが次世代の地域の担い手づくりにつながる(委員ヒアリング)
- ・家庭や学校以外の第3の居場所は、居場所に関わる大人にとっての居場所にもなる(委員ヒアリング)
- ・若い世代だけでなく全世代が自由に教育を受けられる、ITに強くなる。そこで世代間交流ができればいい(神戸地域未来フォーラム)
- ・大学と地元企業の連携をもっと充実させることは、若い人を神戸に留めることにつながる(委員ヒアリング)
- ・受験教育ではなく、生きる力をつける教育を地域で行う。質の高い教育、学力をあげる事ほどのエリアでもできるが、神戸は多様性があるので、自分たちのライフスタイルにとって何が必要か、自然が好き、下町がいいなど様々なニーズに応えられるコンテンツがある(ビジョンを語る会(新長田で活動する若手))

参考

兵庫県内の「まちの子育てひろば」数(2022年1月31日時点)

神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路
220	143	115	123	75	101	70	72	27	32

(注)開設者等の了承が得られたひろばの数
出典:県男女家庭課調べ

※まちの子育てひろば

兵庫県では、親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育てに関する悩みを話し合ったり、お互いの情報交換を行う場であり、大人5人以上のグループであれば「まちの子育てひろば」として登録することができる。県内に約2,000箇所のひろばが開設、登録されており、県では地域ぐるみの子育て支援を推進するため活動支援を行っている。



● ビジョンの種、ビジョンの芽^⑫

r3(アールサン)(合同会社r3)

かつて活気に溢れていた新長田・六間道3丁目商店街に、子ども連れで気兼ねなく入れるカフェ、イベントを開催できる場所としてオープンしました。赤ちゃんから子どもまでの遊びと学びの場所、大人の健康と学びの場所を提供しており、赤ちゃんからお年寄りまで、ワイワイ仲良く集まり夢をかなえる空間です。

ここで人が出会い、語らい、新しい事が創出し、活気が少しでも戻り、この地でそだった子どもたちに生活基盤の地として選んでもらうことにつながればとの想いで作られました。



r 3 に人が集う様子



イ)安心・安全な暮らしを守る地域のつながりをそだてる

地域のつながりを開く

地域に根付いてきた今あるつながりを生かす、新しいつながりをつくる、地域の外側とも積極的につながるなど、様々なかたちで地域に関わりたい、同じ地域に住む人と交流したいという気持ちのある人をつなぎ、地域の活動を広げています。また、自然災害などのリスクにも備えるために、SNSなど新しい交流の方法も取り入れながら、ゆるやかなつながりがそだっています。

地域の人々が支え合うつながりを守る

地域には、まちづくり、お祭り、教育、防災、防犯など様々なテーマで人々がつながる場、まとまる機会があります。これらの地域活動を通して、困ったときに支え合う仕組みをそだてながら、誰かのために何かしてみたいと思う人をその輪につなげています。



県民の意見

- ・近所の付き合いが減ってきている印象がある(第2回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・地域が安全で、誰もが安心して暮らせるまちにしたい(第1回検討委員会)
- ・神戸のように多くの防災機関を持っている自治体は少ないと思う(第1回検討委員会)
- ・神戸には何かをしようと思ったときに、防災に関わることができる環境がある(委員ヒアリング)
- ・催しを実施したり、地域の例祭を守ることで人のつながりがうまれることにつながる(委員ヒアリング)
- ・潜在的に存在する地域のために何かをしたい人が地域に入るきっかけ作りが必要(委員ヒアリング)
- ・住んでいる地域の人々のつながりを考えていくことが人として大事なことではないか(委員ヒアリング)
- ・内部循環だけでは厳しいので、地域内外との交流により刺激し合いながら被災した経験を残すことが重要(委員ヒアリング)

参考

近年に発生した主な災害

1995年(平成7年)	阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)	2013年(平成25年)	淡路島付近を震源とする地震
1998年、1999年 (平成10、11年)	新湊川水害	2014年(平成26年)	8月豪雨
2004年(平成16年)	台風第16号、18号、21号、23号	2018年(平成30年)	7月豪雨
2008年(平成20年)	都賀川水難事故		台風第20号、21号
2009年(平成21年)	台風第9号		大阪府北部地震
2011年(平成23年)	東日本大震災		



● ビジョンの種、ビジョンの芽^⑬

防災を学ぶことができる学校

・兵庫県立舞子高等学校

阪神・淡路大震災直後から校内の防災教育に力を入れると共に、「1.17震災メモリアル行事」や「地域防災セミナー」を毎年開催し、震災の経験と教訓を、地域住民と学校が共に学び、語り継ぐ活動を行ってきました。2002年に全国で初めて、防災を専門的に学ぶ環境防災科が設置されました。災害時にsurvivor, supporterとなるために、知識の習得だけでなく体験に重点を置き、社会で率先して防災に取り組む人材を育成しています。被災地支援活動や全国の学生との交流も継続的に行っています。



中学校への出前授業の様子

・神戸学院大学

阪神・淡路大震災から得られた知見を活かし、未来の安全な暮らしを実現するために、防災や国際協力、ボランティア、社会貢献の専門知識を学び、実践する力を身につけることができる学科として、現代社会学部社会防災学科を設置しました。学びを発信する活動として女性目線で「やってみたくなる防災」の啓発に取り組むサークル「防災女子」があります。災害食アレンジレシピを開発したり、小・中学校への出前授業やイベント出展などに取り組んでいます。



「防災女子」の活動の様子

・兵庫県立大学

阪神・淡路大震災等から得られた教訓や知見を活かした教育研究を展開するため、2017年に大学院「減災復興政策研究科」を設置し、国内外の減災復興政策を担うリーダーを養成しています。また、学部の枠を超えて学べる副専攻「防災リーダー教育プログラム」では、フィールドワークを重視し、災害現場等で発揮できる実践力を磨いています。プログラム修了生には「防災リーダー」の称号が授与されます。



防災リーダー教育プログラムの様子



ビジョンの種、ビジョンの芽^⑭

ご近所SNS掲示板「マチマチ」(神戸市)

「マチマチ」は、ご近所さんとまちの子育てやオススメのお店・病院などについて情報交換ができるご近所限定のオンライン掲示板。「ひらかれた、つながりのある地域社会をつくる」というミッションのもと株式会社マチマチが開発・運営し、神戸市と協定を締結しています。

マチマチの活用により、住民同士の交流や助け合いによる地域の活性化、市政情報の幅広い提供につながることを期待されます。



神戸市ウェブサイトより (PRチラシ)
(<https://www.city.kobe.lg.jp/a56164/kurashi/activate/support/machimachi.html>)



ウ)地域の担い手をそだてる

● 地域のなかでつながりをつくる人を増やす

自分たちが暮らす地域のことを誰かに任せっきりにするのではなく、身の回りにあるモノやコトに関心をもつ人、実際に関わる人、地域のなかで困っている人と助けてくれそうな人をつないだり、他の地域から人を招き入れてくれる人がそだっています。

● 相互扶助のサイクルを循環させる

サポートする人／される人、何かを提供する人／される人といった互いの役割を固定化することなく、地域に暮らす人みんなが、誰かに助けてもらいながら、誰かの役にたつこともできるという相互扶助のサイクルが循環しています。



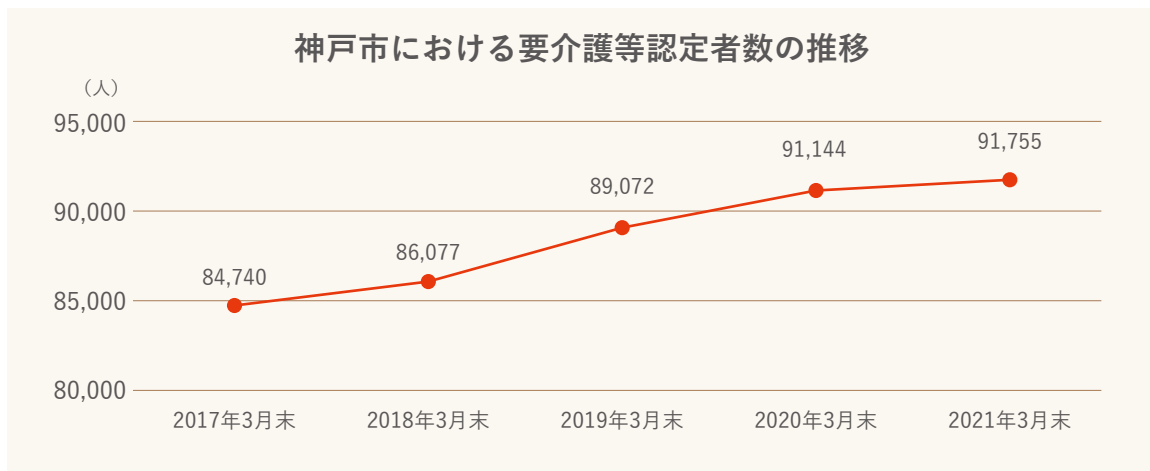
県民の意見

- ・高齢者が活躍する場所を増やし、シルバーパワーが活躍できるまちにしたい(第1回地域デザイン会議(学生グループ))
- ・人口減少のなかで、高齢者にどう生活してもらうかが鍵となるのではないか(委員ヒアリング)
- ・子どもと向き合う力を持ちながら子どもの育成に関わる人材(ファーストアクションで傾聴するなど、コミュニケーションをしっかりとって、青少年や若者から認められる大人)を育成することが非常に大事(委員ヒアリング)
- ・地域のイベントを企画する際に、組む人はプロジェクトによって変わる。この企画だったらこの人かなといったところにまずは声をかけていく。面白ければ人はついてくるし、集まってくるので、仕掛け方次第だと思う。回数を重ねていくと、この企画はこの人に任せられそうだというリーダー的な人が出てくる(県庁ビジョン課ヒアリング)
- ・サポートする側、される側を固定化しないことが基本的な理念として非常に重要であって、サポートされる側の人でもサポートできる側になれるという循環を作っていくことが大事(第1回検討委員会)
- ・みんなで治癒力の高いまち、自分たちで担うことができるまちを目指すための仕組みが必要(委員ヒアリング)
- ・自分たちが担っているという感覚をもち、形式的ではなく、自治組織を残したい(委員ヒアリング)





参考



出典：神戸市福祉局介護保険課調べ

ビジョンの種、ビジョンの芽¹⁵

はっぴーの家ろっけん(株式会社Happy)

職種や年齢、国籍が異なる人々が入りし、その数は1週間で200名に上る、多世代型介護付きシェアハウス(長田区)。

地域の人など誰でも集まることのできるスペースには、買い物に行く母親が預けた赤ちゃんを入居者があやしたり、遊びに来た小学生が入居者の食事介助を手伝う姿がみられ、日常のなかで互いに助け合う関係がうまれています。



集まった地域の人と入居者が交流している様子



エ) 多様な主体が共に社会をそだてる

公共の担い手をそだてる

自分たちのまちのことを自分たちで解決することに関心のある人や団体にこれまで神戸で育まれてきた市民活動と利他の精神を継承し、神戸が抱える課題や問題を解決する実践の場に導くことで、市民活動の担い手、公共の担い手がそだっています。

社会の維持に多様な人・組織が関わる

古くから市民活動が盛んであった神戸には、まちづくり、コミュニティの維持に関わる様々なNPO、市民団体がおり、社会貢献に取り組んでいる企業も多数存在します。それらの社会を支える人や組織がつながる場が増え、異なる立場の人・組織の活動をコーディネートする人が活躍しています。



県民の意見

- ・公共的なものをみんなで担う「公共の担い手」の育成が大事で、育成のためには、行動する人を増やしていくことが必要(委員ヒアリング)
- ・既存の自治会や婦人会(地縁団体)をやっていない層を取り込んでいくことが大事(委員ヒアリング)
- ・組織同士の協働だけでなく、異質なものと個人、組織と組むことで、社会課題を解決していく仕組みができると、人とのつながりがカバーできたり、社会のために活動する人の数が増えたりすることにつながる(第1回検討委員会)
- ・人や社会とつながりたいという気持ちがある人が多そうなので、マッチング次第で可能性が広がる(委員ヒアリング)
- ・高齢になると過去と今をみるが多くなるので、未来を見据える視点を持つ若い人に市民活動に参加してほしい(委員ヒアリング)
- ・人は情報の受け手になりがちだが、市民活動では発信者にもなることができる面白さがある(委員ヒアリング)

参考

兵庫県内のNPO法人数(2021年12月31日時点)

神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路
815	328	257	174	115	184	92	78	70	62

出典：県民生活課調べ





ビジョンの種、ビジョンの芽⑩

地域共生拠点・あすパーク (NPO法人CS神戸)

阪神・淡路大震災から25年を機に、認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸が灘区大和公園内に建設し、運営する施設。だれもが地域コミュニティで居場所と役割を持ち、交流や社会課題に取り組み、いつまでもいきいきと暮らしていけるように、食やケアなどをテーマに企業や団体ともつながりながら事業を実施・展開しています。



あすパーク外観



食材配送つながる便

HP (<https://www.cskobe.com/information/topics/aspark/>)
フェイスブック (<https://www.facebook.com/aspark.cskobe/>)



4 おわりに

たくさんの県民の、神戸地域の将来像に対する思いをつむいで、新しい神戸地域ビジョンは策定されました。

ビジョンが描く将来像の中では、地域のつながりを広げ、地域に関わりたい人を呼び込むことで、地域の担い手をそだてる姿を描いています。ビジョン実現のためには、県民が主体となり、様々な人や組織とビジョンを共有し、連携することが求められます。

多様な主体と連携することは様々な挑戦を可能にします。たとえ失敗してもその経験を生かし、再チャレンジできる地域を目指して、挑戦し続けることが大切です。

ビジョンの実現に向けた挑戦は、やがて新しいものをうみだし、その実践に関わった人々を含めて地域の財産となるでしょう。神戸の地はそれをそだてて、次代へとつなげていきます。

あらためて、皆さんと共有したいと思います。

「みんなの希望にフィットするまち・神戸」

都市と自然の豊かな空間に、暮らす、働く、楽しむ、どれをとっても多様な選択肢がある神戸。神戸に関わる人、資源を「つなげて」、新しいものを「うみだし」、それを「そだて」ていく。希望に寄り添い、包み込むまち、希望をかなえる地域を目指します。





1 新たな神戸地域ビジョン策定までの道のり

1 新神戸地域ビジョン検討委員会

神戸地域の目指す将来像を示す新たな地域ビジョンを多様な主体の参画により策定するため、有識者等14名で構成される新神戸地域ビジョン検討委員会を設置し、検討を進めた。

①構成委員（所属・役職は令和3年7月1日現在）

◎：委員長、○：副委員長

乾 美紀 ○	兵庫県立大学環境人間学部教授
井上 哲	第10期神戸地域ビジョン委員長
岩佐 光一郎	神戸市自治会連絡協議会名誉会長
梅澤 章	神戸市企画調整局政策調査課長
児玉 充弘	JA兵庫六甲支店統括本部神戸地域統括統括本部長
関口 幸明	神戸商工会議所理事・事務局長
辻 幸志	NPO法人こうべユースネット理事長
徳永 恭子	株式会社神戸新聞社編集局次長
永吉 一郎	株式会社神戸デジタル・ラボ代表取締役
飛田 敦子	認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸事務局長
星 敦士 ◎	甲南大学文学部教授
宮定 章	認定NPO法人まち・コミュニケーション代表理事
森田 祐子	神戸市婦人団体協議会副会長
渡辺 元樹	一般財団法人神戸観光局観光部長

（五十音順）

②開催状況

第1回	令和2年8月4日	全体テーマの設定
—	令和2年11月から令和3年5月まで	検討委員への個別ヒアリング
第2回	令和3年6月10日	骨子案の検討・策定
第3回	令和3年11月11日	素案の検討・策定



2 地域デザイン会議

県民が感じている地域課題、県民が望む生き方や地域の将来像を抽出し、検討委員会での骨子案策定の議論につなげるため、市内大学に通学する学生10名と市内企業に勤務する者11名が参画する地域デザイン会議を開催した。

①参画者(所属は令和2年7月1日現在)

(若手企業人グループ)

綾 貴紀	株式会社レーブドゥシェフ
井上 芳明	西神戸農業経営者協議会
片山 喜市郎	株式会社喜市
金井 一篤	有馬山叢御所別荘
東馬場 怜司	株式会社東馬場農園
藤本 耕司	藤本園芸
武藤 寿旭	ネスレ日本株式会社
村西 優季	NGO神戸外国人救援ネット
室谷 崇文	株式会社神戸デジタル・ラボ
森田 愛梨	シスメックス株式会社
和田 伸介	一般社団法人神戸市機械金属工業会青年経営研究会

(五十音順)

(学生有志グループ)

池田 諒樹	甲南大学
上田 映	神戸親和女子大学
大西 瑠佳	神戸松蔭女子学院大学
海金 一平	神戸常盤大学
北脇 敬吾	神戸学院大学
木下 七海	神戸大学
永尾 崇晃	非公表
中山 彩乃	兵庫県立大学
中山 凜奈	流通科学大学
馬田 美詩佳	甲南女子大学

(五十音順)





②開催状況

第1回	令和2年8月28日	企業人グループと学生グループ合同 ※ビジョンを語る会と併催 【テーマ設定】大学生と各分野の若手の意見聴取
第2回	令和2年9月18日	企業人グループ 【テーマの深掘り】 各分野の若手からさらなる意見聴取
第3回	令和2年10月16日	学生グループ 【テーマの深掘り】 大学生からさらなる意見聴取
第4回	令和2年11月17日	企業人グループ 【テーマの深掘りと取りまとめ】 各分野の若手からさらなる意見聴取
第5回	令和3年2月23日	学生グループ ※未来フォーラムと併催 大学生と各分野の若手の意見のブラッシュアップ

③主な意見

●暮らし

- ・実際の距離よりも、都市部と田園部の距離が開いている気がする
- ・地方と都市が物理的な距離を意識しないですむような、シームレスなつながりができている関係になってほしい("神戸"が都市だけを指すのではない)
- ・都会は便利というイメージがあるが、過疎地域と呼ばれるところでの将来の生活が想像しにくい
- ・セカンドハウスやリモートワークをしながら田舎で暮らすなど、色んな生活様式を提案するモデル地域のような役割を果たすこともできるのではないか
- ・地元の文化性や歴史性が凝縮されたものを大切にし、文化的・歴史的で、個性豊かな地域になってほしい

●人づくり

- ・神戸に住みたいという人や神戸が好きだという人を増やす必要がある
- ・小さいときから神戸ならではの文化や歴史に触れる機会を増やす必要がある
- ・高い能力を持った高齢者が活躍する場所を増やす
- ・子供をそだてたいと思えるまちにしたい

●農業

- ・生産者と消費者のつながりを持つような姿勢は残していくべき
- ・農業自体に注目は集まっているが、実際に農業で働くというところまでにはつながっていない



- ・作るだけでなく販売まで一貫してやるのが面白いところだが、規制が厳しいため、やりたいことができない
- ・農家と飲食業が連携することで、様々な作物を作れる神戸ならではの食文化ができる
- ・地域の子どもたちが、その地域に誇りを持つ、その地域の産業(農業)に誇りを持つきっかけ作りが、この先の20年、30年先につながっていく

● 産業

- ・同業種連携における地域の中間団体が弱体化している
- ・もっと気軽に企業間だけでなく、産官学の交流を含め、深めていける時代になってきている
- ・各企業が交流する場を設けることで、自然発生的に企業間連携がうまれる仕組みを作る必要がある
- ・非営利団体が軸となり、異業種のマッチングを行えば新たな産業がうまれるのではないか
- ・新たなサービスや商品作りに挑戦したいという環境をそだてる

● 国際

- ・神戸全体でみても色々な国籍の人が住んでいる
- ・日本に来る外国人の流れも時代によって変わっている
- ・多文化ルーツを持つ人たちが神戸の住民として、神戸がふるさとになっていく環境になっていく
- ・異文化が溢れる国際色豊かなまちづくり、より多様性を認め合いながら暮らしやすいまちにしたい

● 観光

- ・小さい個人営業をしている店にスポットを当てる
- ・空きスペースを有効活用して観光客や住人を呼び寄せる
- ・国内旅行者の好みに合うような、個人でもできる体験型の観光を伸ばす
- ・海外からの知名度が高くないので、宿泊までしてもらえる外国の観光客を狙った地域づくりやプロモーションが必要
- ・(地元の)魅力は感じるだけではなく、それを他の人に伝えていかなければいけない

3 ビジョンを語る会

新しい地域ビジョンを検討するための素材を収集するとともに、ビジョンづくりへの機運の醸成を図るため、地域の様々な団体や地元有志グループのメンバーなどと地域の課題や将来像について意見交換を行った。





①開催実績

日程	対象者	所属等	人数
令和2年8月28日	地域デザイン会議メンバー	神戸大学ほか9大学、 神戸デジタル・ラボほか10企業等	18
令和2年9月2日	青年農業士等	施設野菜(イチゴ・トマト、葉物)、 施設花卉、酪農、肉用牛等	8
令和2年10月6日	神戸市小売市場連合会	腕塚食材商業協同組合、 大安亭市場協同組合ほか	7
令和2年10月28日	新長田の若手起業家等	西村川魚店、福祉事業型専攻科 エコールKOBÉ、駒林神社ほか	15

※別途、区ごとの県政懇話会でもビジョンに関する意見交換を実施(7/14~8/31、計9回)

②主な意見

●第1回(デザイン会議メンバー)

- ・神戸の農業には生産者と消費者のつながりを感じる機会が多い
- ・異文化が溢れる国際色豊かで、より多様性を認め合いながら暮らしやすい地域になればいい
- ・高い能力を持つ高齢者が活躍する場所が増えていくといい
- ・歴史はまとめるだけでなく、教えていくことが重要
- ・小さいときから神戸ならではの文化や歴史に触れる機会を増やす必要がある
- ・リモートワークなど働く場所を選ばないことで、田舎で生活をしながらまちなちの仕事ができる環境が整いつつある
- ・魅力は感じるだけでなく、他の人に伝えていかなければいけない

●第2回(青年農業士等)

- ・高校生のインターシップがなくなり、地域との交流が減っている
- ・子どもたちに、もう少し農業を身近に触れてほしい
- ・野菜や生鮮食品は大事だと小さいときから教育することで、農業に対して興味を持ってもらい、雇用につながるといい
- ・地元の人たちが神戸産のものを良いから買いたいと思ってもらうために、都市近郊という強みをもっと生かすことができないか
- ・子どもたちの農業体験は、昔ながらの大変な農業のアピールになっているかもしれない

●第3回(神戸市小売市場連合会)

- ・市場は各地域のコミュニティスペースでもある
- ・物を売るという役割もあるが、コミュニティとしての役割は人でしか果たすことが出来ない大事な役割である
- ・商店街の商売そのものの後継者がおらず、空き店舗ができていく
- ・今後30年経っても、人と人のふれあいはとても大事になってくる



- ・どこでも買い物が出来るなかで、誰の店で買いたいかを動機付けることは、人にしかできない
- ・ビジョンでは暗い話題ではなく、楽しい話ができるようにしてほしい

● 第4回(新長田の若手起業家等)

- ・神戸の案件は神戸にいるクリエイターで賄えるようにしたい
- ・神戸は兵庫県のゲートシティである
- ・神戸に住むと全部いいところ取りができるという魅力がある
- ・地元の人が良い距離感で接してくれるため、他市町からくる人が多い気がする

4 未来フォーラム

広く一般県民を集めたフォーラムを開催し、新しい神戸地域ビジョンと全県ビジョンの検討状況を発表し、意見交換を実施した。

①令和2年度

【日 時】 令和3年2月23日 13時30分～16時30分

【場 所】 兵庫県民会館

【テーマ】 神戸のいいところ どんどこ？

【内 容】 20代から80代までの幅広い世代の県民が参加し、「人づくり」、「暮らし」、「自然」、「交流」の4つのテーマに沿ってグループに分かれ、意見交換を行った。神戸のいいところや課題から、30年後になってほしい神戸の姿とキャッチコピーを考え、最後にはまとめとして発表を行った。

②令和3年度

【日 時】 令和3年11月26日 14時00分～15時30分

【場 所】 ふたば学舎 講堂

【内 容】 新しい神戸地域ビジョンの案の3つの要素である「つながる」、「うまれる」、「そだてる」について、20代から70代までの幅広い世代の県民が神戸地域の未来について意見交換を行った。

5 パブリック・コメント

令和3年12月27日から令和4年1月11日までパブリック・コメントを実施し、12件(4名)の意見提出があった。





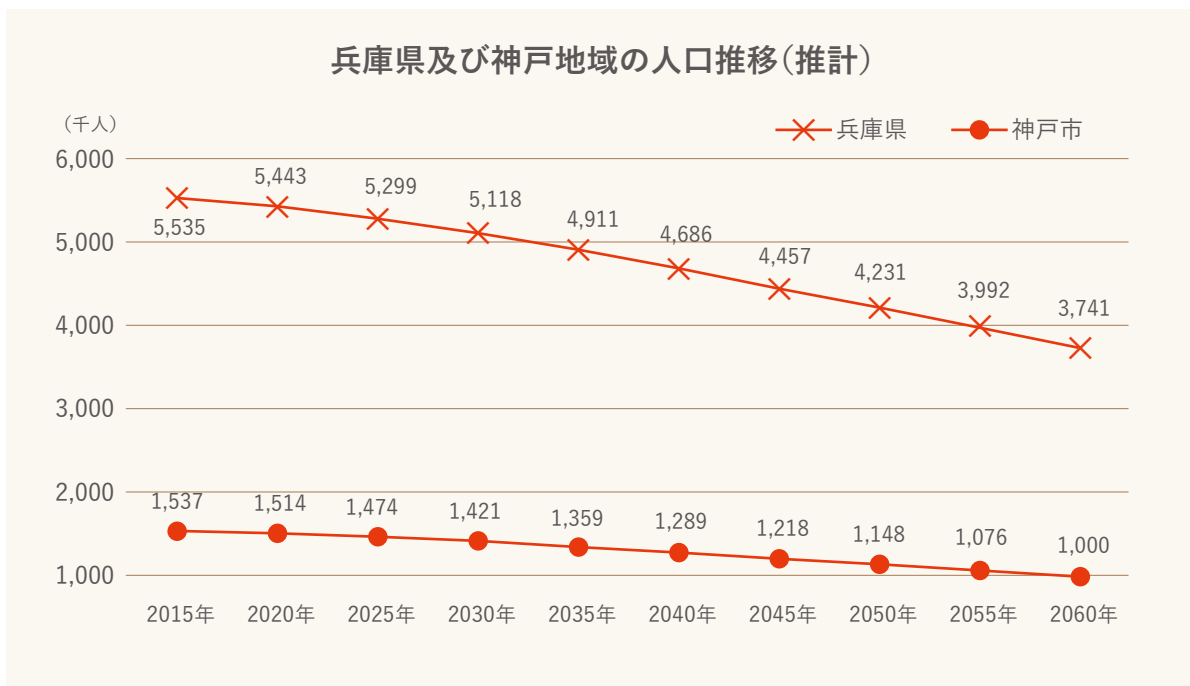
2 神戸地域をとりまく社会環境、自然環境の変化(詳細版)

人口変動、経済構造の変化、グローバル化の進展、地域のつながりの変化、そして地球温暖化に代表される気候変動といった社会全体における様々な変化は、神戸地域の現在、そして今後に対しても大きな影響を与えている。これらは、いずれも放置すれば今後さらに深刻な課題となっていくことが予想されるが、その変化に対して適切に対応することができれば、地域の可能性を広げる側面ももつ。

2050年に神戸地域がこうなっていたいという姿を描くにあたっては、刻々と変化する社会環境、自然環境の状況を十分に踏まえ、様々な観点から不確実性の高まりに対応する必要がある。ここでは、①人口変動、②産業構造・就業構造の変化、③多文化共生の進展、④地域のつながりの変化、⑤自然環境との共生のあり方の変化、について統計データとともに概観し、それぞれについて神戸地域が抱える課題について確認する。

1 人口変動 ～減少する人口、少子高齢化、若い世代の流出～

神戸地域の人口の将来推計によると、出生率等が現状のまま推移した場合、人口は一貫して減少傾向をたどり、2050年頃には1,148千人と2020年に比べ約4分の3の水準になると予測されている。また、神戸市の区別の人口推計結果をみると、北区が2020年から2050年にかけて約4割減少するのに対し、中央区では微増の見込みであり、将来的には地域内において人口が偏在化していくことも予想される。



出典: 県ビジョン課調べ

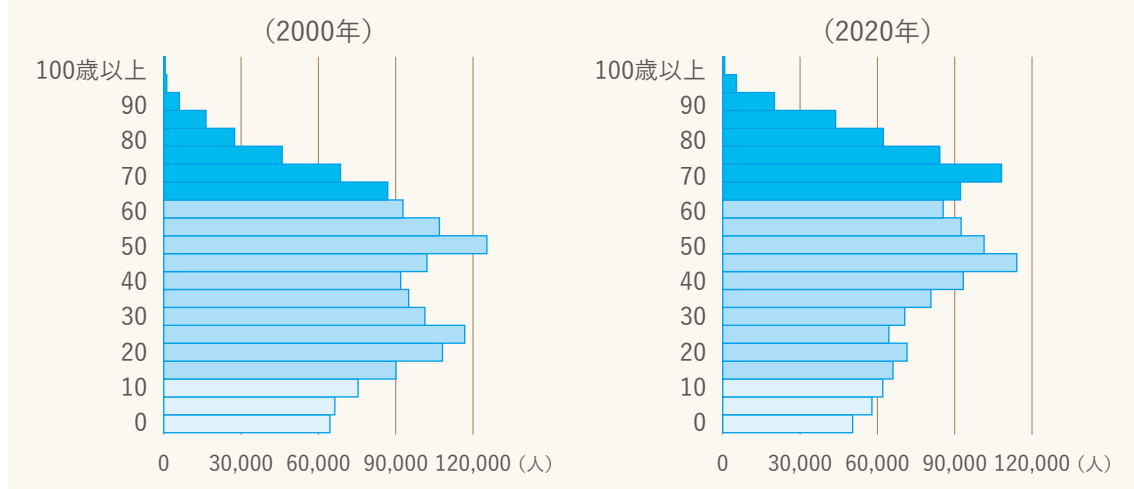
神戸地域における区別人口推計結果(千人)

	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	2065年	2050年	2065年
							対2020年増加率	
兵庫県	5,443	5,118	4,686	4,231	3,741	3,486	-22.3%	-36.0%
神戸地域	1,514	1,421	1,289	1,148	1,000	921	-24.2%	-39.2%
東灘区	213	205	191	175	155	145	-17.8%	-31.9%
灘区	136	131	122	112	99	92	-17.6%	-32.4%
兵庫区	106	103	99	94	89	85	-11.3%	-19.8%
長田区	94	86	77	69	60	55	-26.6%	-41.5%
須磨区	157	142	124	107	90	81	-31.8%	-48.4%
垂水区	214	198	177	157	136	126	-26.6%	-41.1%
北区	210	185	155	127	100	86	-39.5%	-59.0%
中央区	143	151	150	145	137	132	1.4%	-7.7%
西区	240	221	193	163	133	119	-32.1%	-50.4%

出典:県ビジョン課調べ

全国的な傾向と同様に、神戸地域でも人口に占める高齢者の割合が増加する「高齢化」と、出生率が低下する「少子化」が並行して進展するいわゆる「少子高齢化」が進んでいる。神戸地域の高齢化率(65歳以上の人口比率)は28.6%で、兵庫県全体の29.0%とほぼ同水準である。一方、65歳以上人口に占める一人暮らし高齢者の割合は神戸地域では24.3%と県全体の19.3%を上回っている。

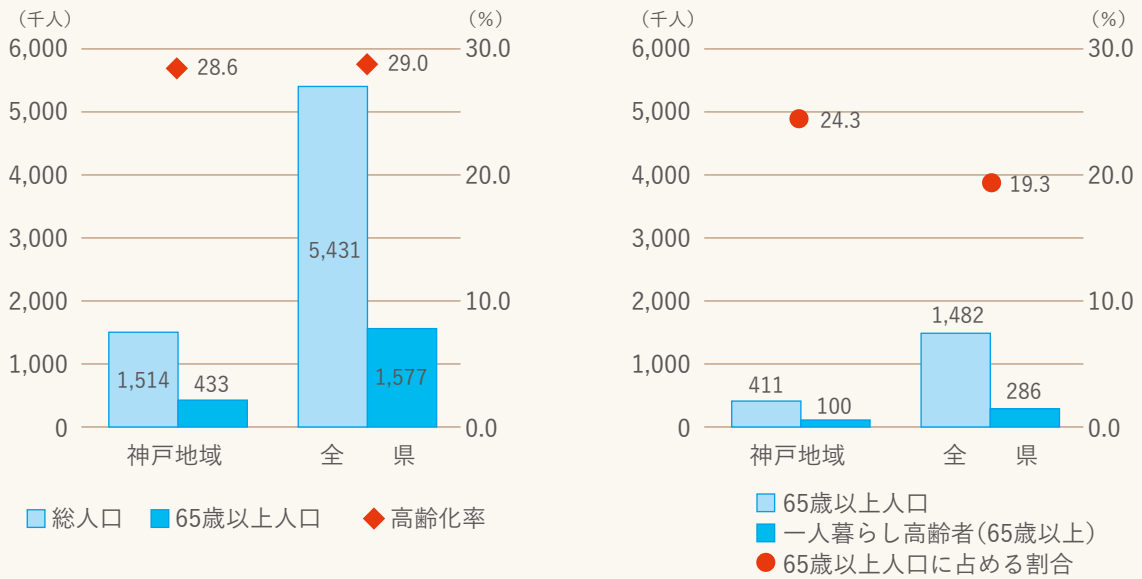
神戸市の年齢別人口推移(2000年、2020年 人口ピラミッド)



出典:総務省「国勢調査」



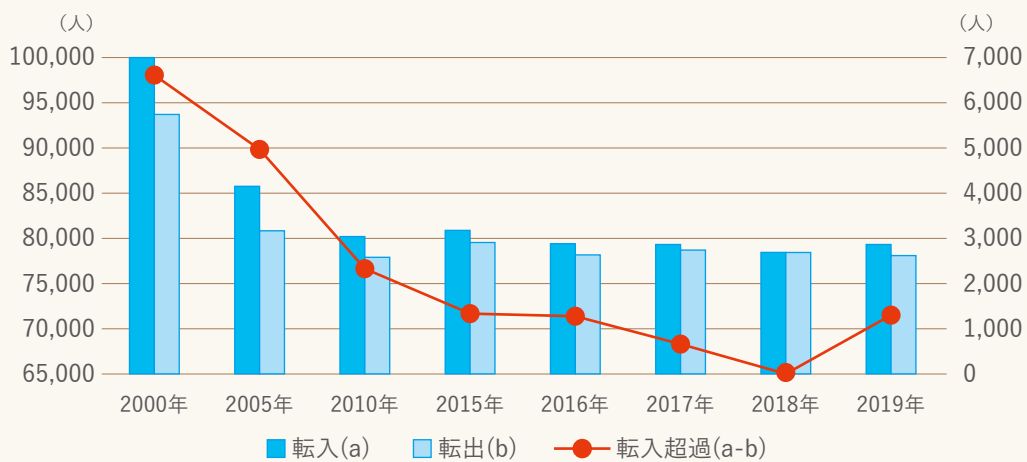
兵庫県及び神戸地域の高齢化の状況



出典：(左図)県情報事務センター「高齢者保健福祉関係資料」(2021) (右図)総務省「国勢調査」(2015)

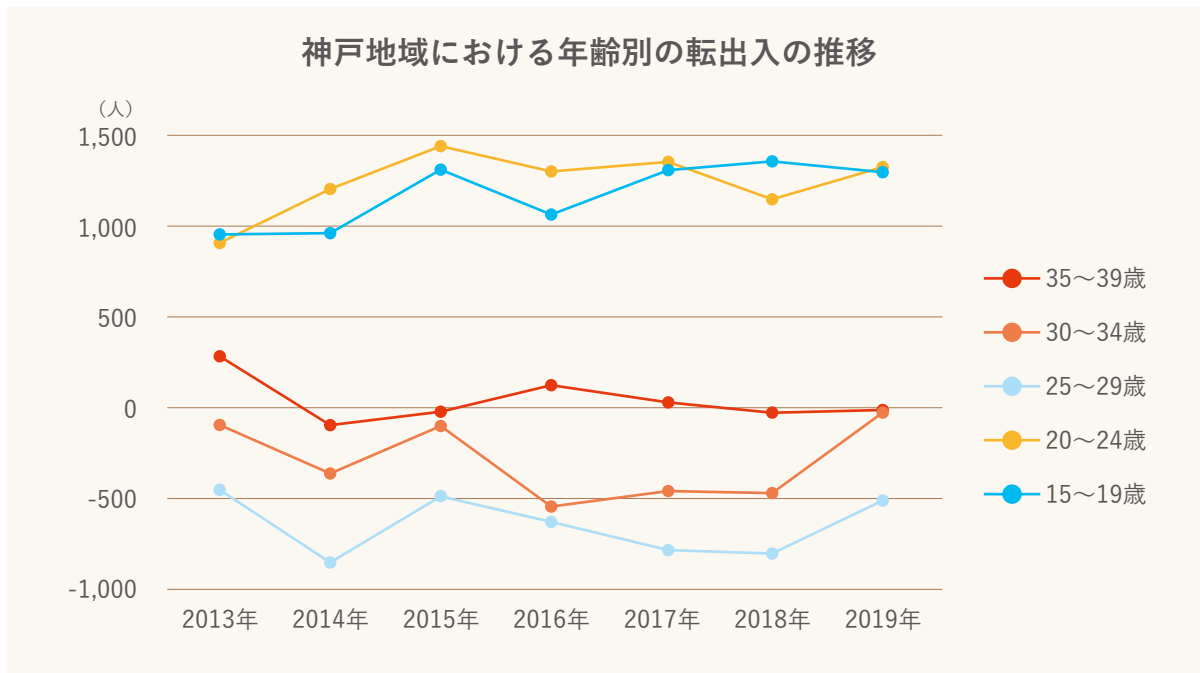
神戸地域における人口転出入の推移をみると、転入超過幅が減少傾向にある。年齢別でみた人口転出入の推移では、10代後半、20代前半に流入し、20代後半で流出している。

神戸地域における人口転出入の推移



出典：「神戸人口ビジョン(改訂版)」





出典：「神戸人口ビジョン(改訂版)」

人口減少や少子高齢化、若い世代の流出は、都市の活力・魅力の減退につながるだけでなく、地方公共団体の税収の減少を招き、住民の買い物や交通、医療・福祉をはじめとした日常的な生活サービスの維持にかかるコストの増加をもたらしかねない。一方で、地域の人口規模や年齢バランス、住民のニーズに合わせて、どのような地域になることが望ましいかを考え、今、そしてこれから神戸に住む人にとって暮らしやすいまちづくりを進めていくきっかけとしてとらえることもできる。



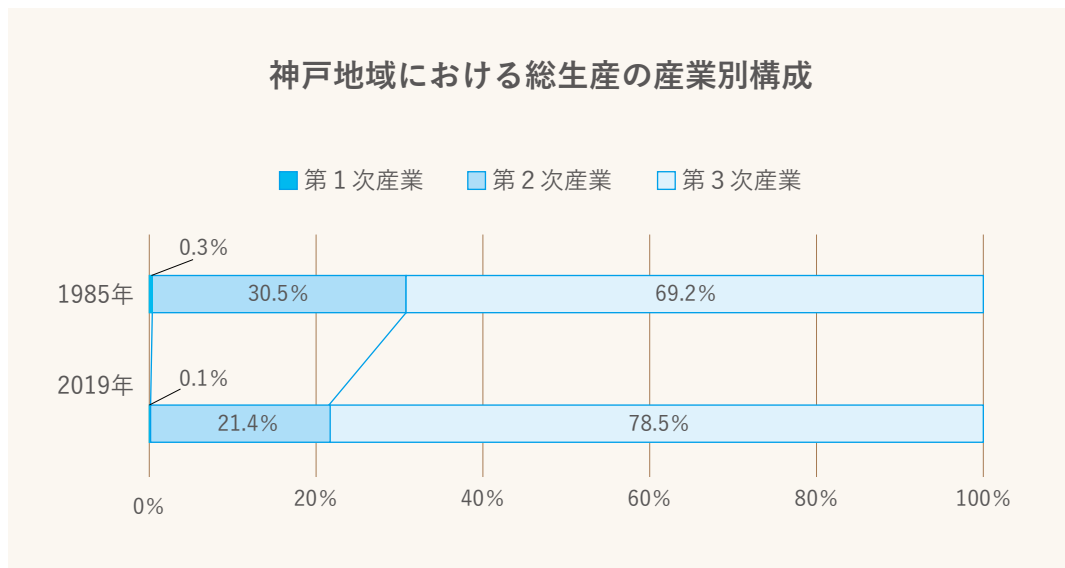


2 産業構造・就業構造の変化 ～サービス産業へのシフト、非正規雇用の増加～

神戸は、造船業や鉄鋼業などのいわゆる重厚長大産業が域内の経済を牽引し、発展してきたが、阪神・淡路大震災で大きな打撃を受けた。経済を立て直すため、神戸市によって「神戸医療産業都市」が推進され、現在はポートアイランドを中心にヘルスケア・医療関連企業が集積し、日本最大の医療産業クラスターに成長している。

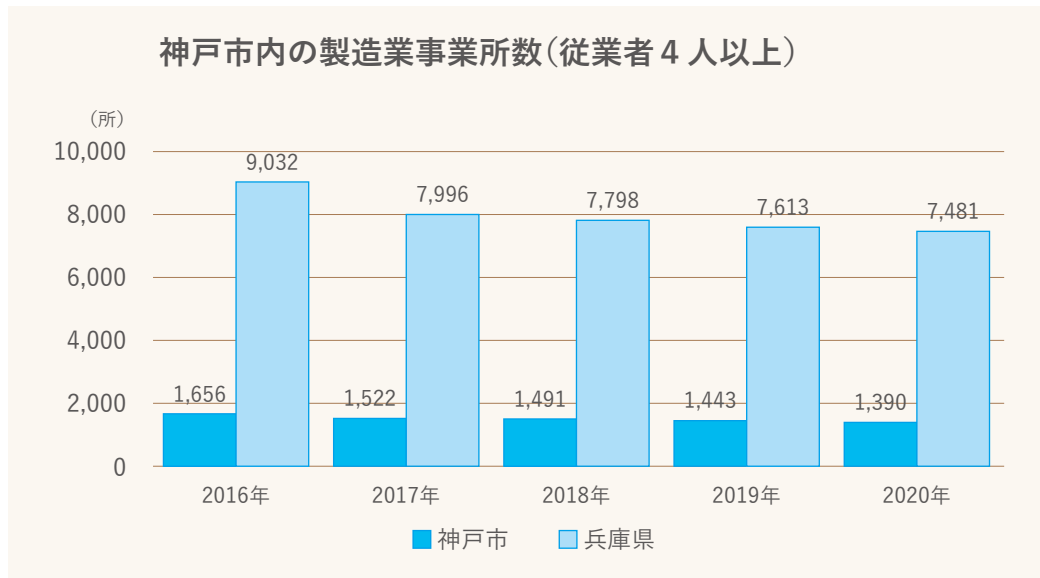
神戸地域の産業構造をみると、1985年に神戸市内総生産の69.2%を占めていた第3次産業の割合が2019年には78.5%に達しており、サービス産業へのシフトがより一層進んでいる。

製造業の事業所数は2016年の1,656事業所から2020年には1,390事業所と減少している。



出典：県統計課「市町民経済計算」





出典:経済産業省「工業統計調査結果」

雇用状況についてみると、全国的な傾向と軌を一にして、神戸地域においてもパート・アルバイト等の非正規雇用労働者数が増加し続けている。全雇用労働者に占める非正規雇用労働者の割合は、1997年の28.1%から2017年には39.2%と約5人に2人の水準に達している。また、非正規雇用労働者の占める割合は男女差が大きく、女性では約6割が非正規雇用となっている。

神戸地域における正規雇用労働者と非正規雇用労働者の推移(千人)

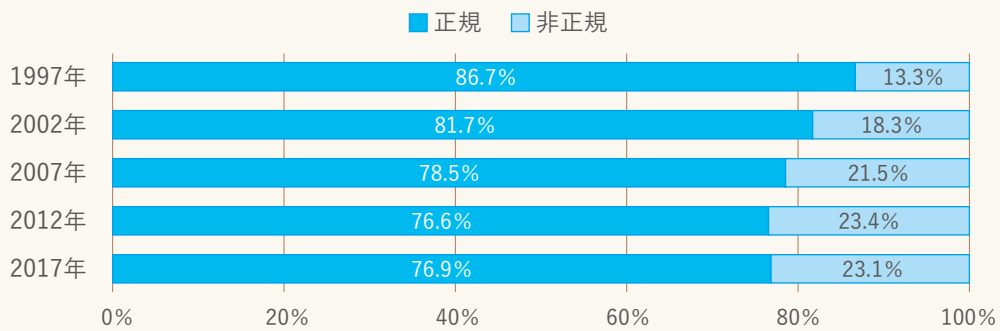
	1997年	2002年	2007年	2012年	2017年
非正規雇用労働者	158	200	239	248	262
正規雇用労働者	405	369	375	370	406
全体に占める非正規雇用の割合	28.1%	35.1%	38.9%	40.1%	39.2%



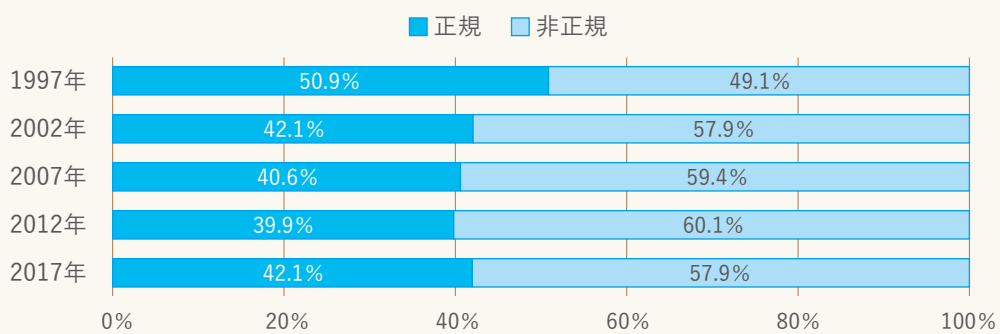


神戸地域における正規雇用と非正規雇用労働者の割合推移

(男性)



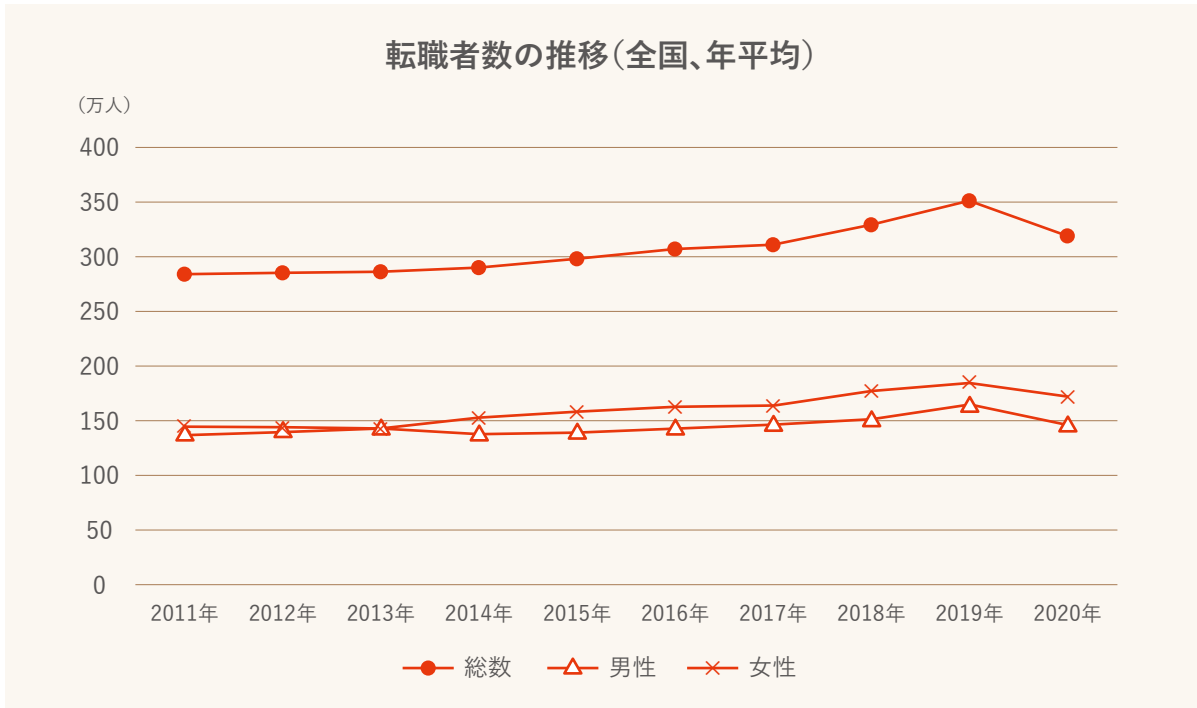
(女性)



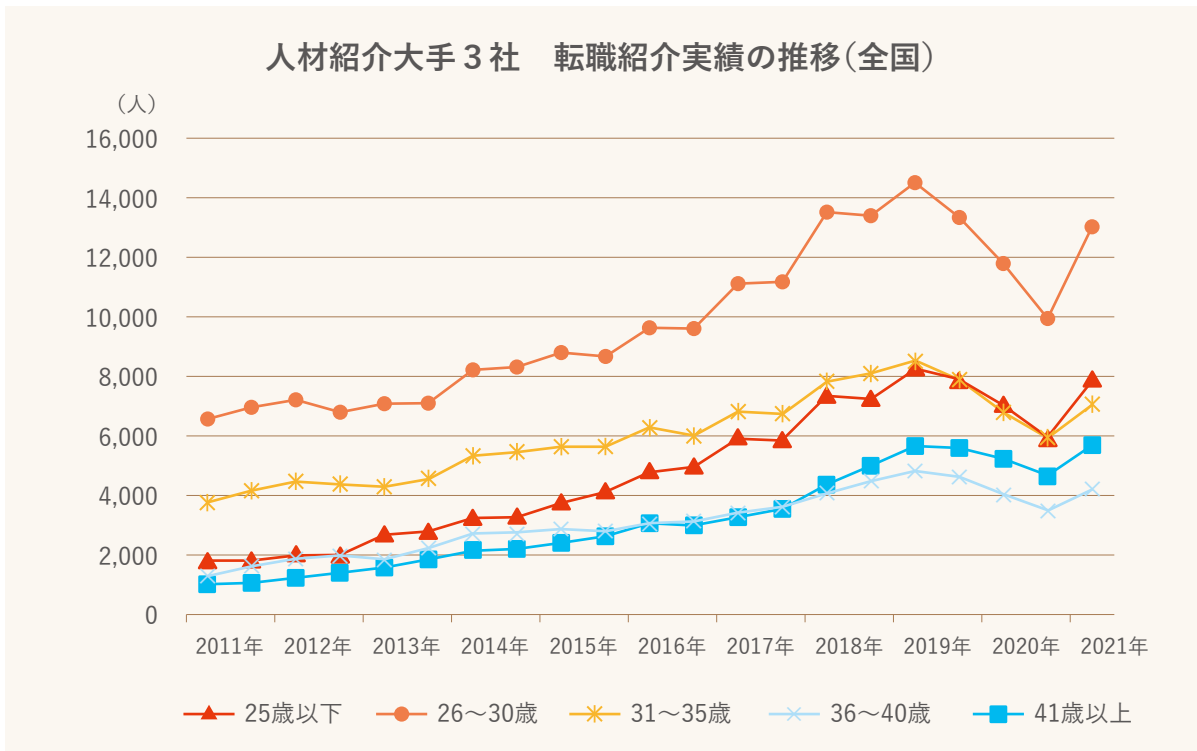
出典：総務省「就業構造基本調査」

総務省の労働力調査によると、転職者数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり2020年には減少したものの、2011年から2019年にかけて増加傾向がみられる。転職紹介人数(入社実績)も転職者数と同様の増加傾向がみられるなか、特に26歳から30歳の若い世代が高い水準で推移している。若い世代を中心に雇用の流動化が進んでおり、非正規雇用の増加と合わせ、従来の就業構造からの変化が生じている。





出典:総務省「労働力調査」



※人材大手3社:(株)ジェイエイシーリクルートメント、パーソナルキャリア(株)、(株)リクルートキャリア
 出典:日本人材紹介事業協会「人材紹介大手3社 転職紹介実績の集計結果」





中小製造業は、急速なグローバル化の進展のなかで、大企業からの受注を中心とした経営のみでは生き残ることが困難になっている。しかし、産業構造の変化は、起業支援、異業種間連携を積極的に推進するなど神戸がもつ実験都市としての実践・実装志向を活かすチャンスでもあり、革新的な技術の創出が期待される。

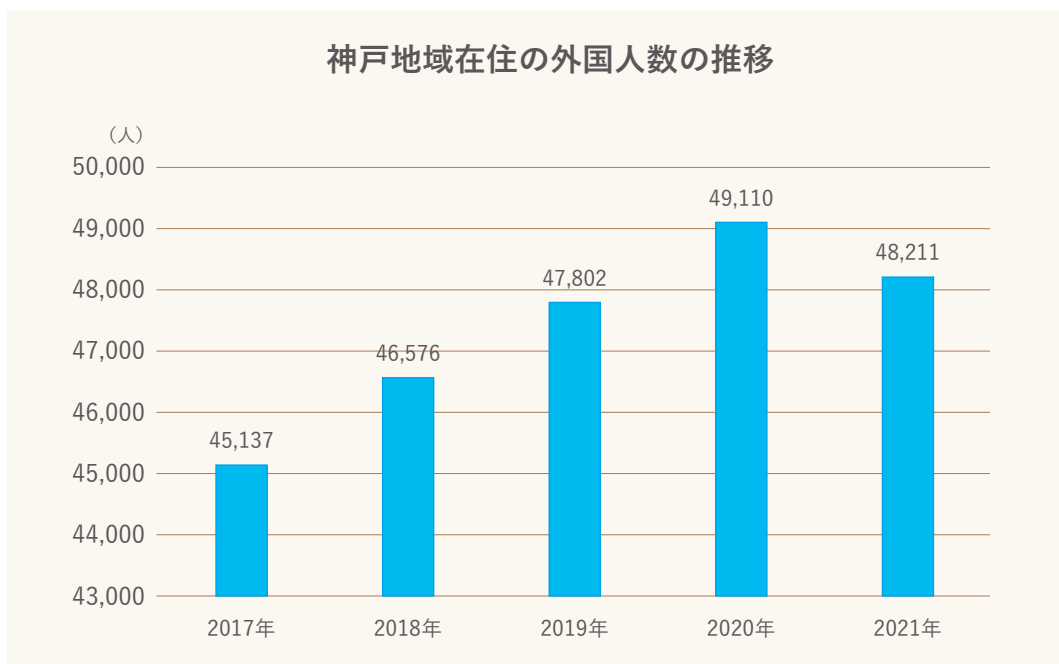
高まる雇用の流動化は労働市場の活性化を促し、効率的な企業成長と労働者自身のスキルアップをもたらすことが期待される一方、有期雇用や非正規雇用の増加は安定的なキャリア展望を阻害し、人々の生活を不安定なものにしかねない。特に若年層では結婚や出産のような長期的なライフコースを見据えた生活設計を困難にする可能性がある。



3 多文化共生の進展 ～国籍の多様化、増える外国人労働者～

神戸港を有する神戸は、兵庫のみならず日本の玄関口として発展してきた。神戸港は、12世紀頃には大輪田泊と呼ばれ、諸外国との貿易拠点となった。また、明治維新以降は、外国人居留地を通して、ジャズやゴルフの日本発祥の地となるなど異国情緒溢れる文化がそだち、人・モノ・情報が行き交う国際性豊かな地域として発展を遂げてきた。

そのような歴史的背景を持つ神戸には、現在も多くの外国人が居住している。神戸地域在住の外国人数は、新型コロナウイルス感染症の流行もあって、2021年3月末にはやや減少したものの、5万人近い水準に達している。



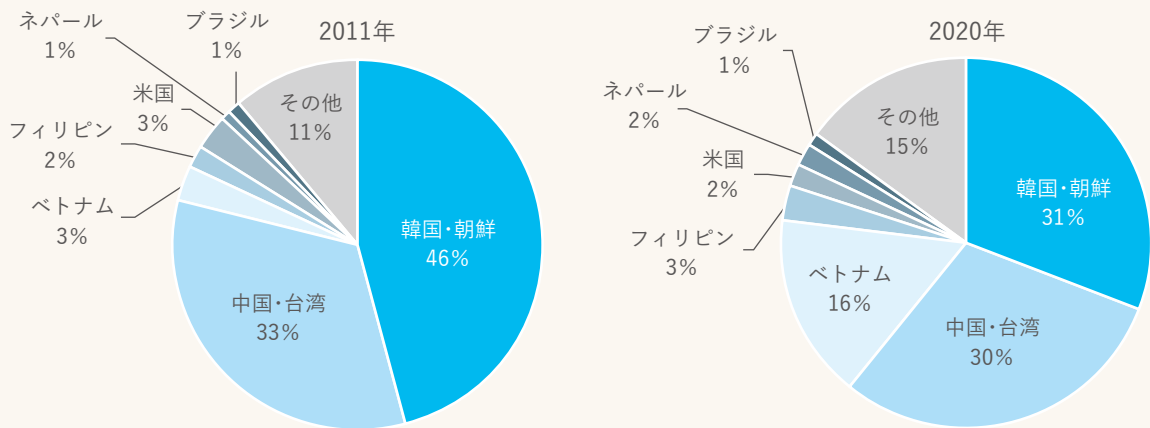
出典:神戸市「データこうべ 月別各種統計表」





2011年と2020年の二時点で神戸地域在住外国人の国籍構成を比較すると、韓国、中国国籍が多数を占めている状況は変わらないものの、ベトナム国籍の割合が急増し、2020年時点で15%を超えている。また、構成比率としては小さいもののネパール国籍の増加率も高く、全体として在留外国人の国籍が多様化している。

神戸地域在住外国人の国籍構成割合の比較(2011年と2020年)



出典：県国際交流課「県内在留外国人数一覧」

国籍別神戸地域在住外国人人数(2011年と2020年)

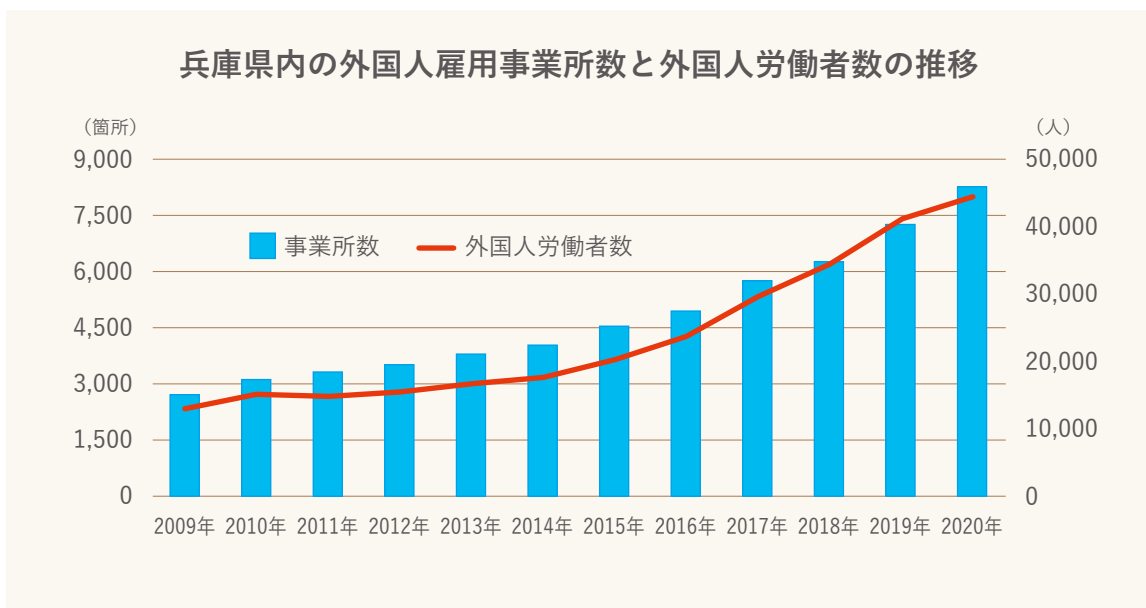
	2011年(人)	2020年(人)	2011年→2020年	
			増加数(人)	増加率(%)
韓国・朝鮮	20,036	15,270	-4,766	-23.8
中国・台湾	14,338	14,646	308	2.1
ベトナム	1,510	7,875	6,365	421.5
フィリピン	1,056	1,409	353	33.4
米 国	1,236	1,134	-102	-8.3
ネパール	224	1,202	978	436.6
ブラジル	497	558	61	12.3
そ の 他	4,808	7,121	2,313	48.1
総 数	43,705	49,215	5,510	12.6

出典：県国際交流課「県内在留外国人数一覧」

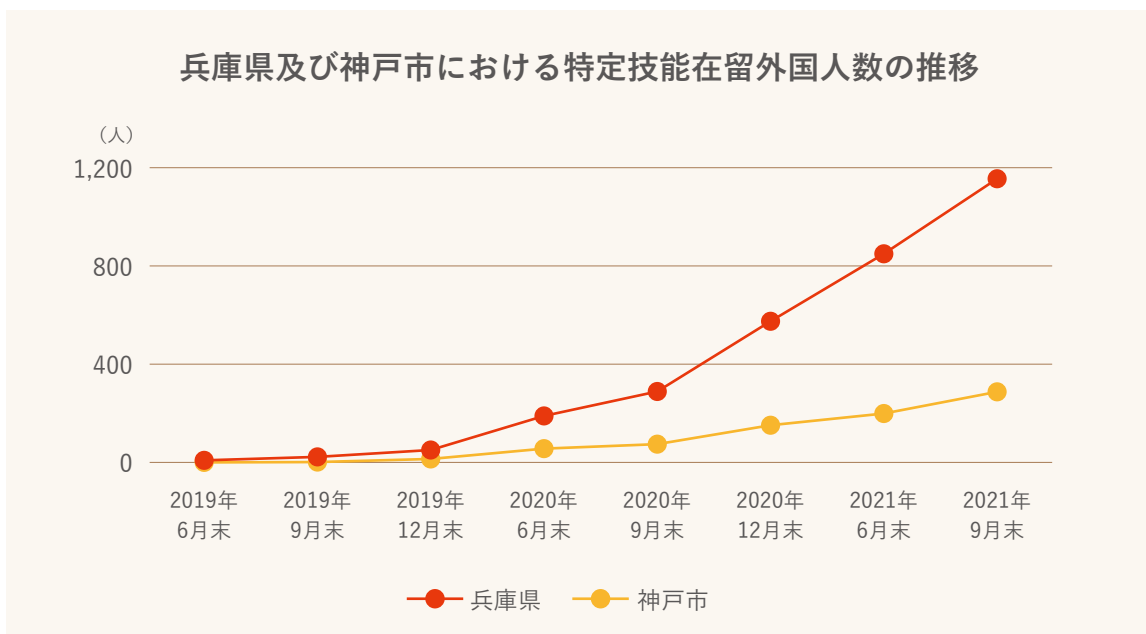


兵庫県内の外国人労働者数は年々増加しており、2020年10月末現在では、44,441人となっている。

2019年4月には入管法改正にともなう特定技能制度が新設された。日本で学んだ技能を母国に伝えることを目的とする技能実習に対して、特定技能は、人材確保が困難な産業分野における労働力の確保という目的がある。法務省の調査によると、兵庫県及び神戸市における特定技能在留外国人数は増加傾向にあり、今後外国労働者の一層の増加が見込まれる。



出典：厚生労働省「外国人の雇用状況」



※2021年9月末現在、特定技能2号外国人の在留はないため、値は全て特定技能1号在留外国人数となる
出典：法務省「特定技能1号在留外国人数」





兵庫県は平成28年3月(令和3年3月改定)に「ひょうご多文化共生社会推進指針」を策定し、外国人を含むすべての県民が相互に理解し、共に支え合うことにより、誰もが自己を活かすとともに、地域への参画と協働を担うことのできる多文化共生社会の実現を目指している。

神戸を訪れ、住み、働く外国人が増えていくことは、この地域が世界とつながり、多文化共生の長い歴史をもつグローバル都市としての魅力を高める原動力である。今後も神戸がそのような魅力ある地域であるためには、国籍や言語、文化が異なる多様な人々との間で、お互いを地域社会のメンバーとして認め合い、等しく教育を受ける機会を守り、就労環境や雇用における不公正を是正する仕組みをつくっていくことが必要である。



4 地域のつながりの変化 ～多様な人や組織がつながる社会へ～

神戸では、1921年に神戸購買組合と灘購買組合(現在のコープこうべの前身)が相次いで誕生しており、早くから市民活動に取り組む土壌が形成されてきた。阪神・淡路大震災では多くの一般市民がボランティア活動に参加し、震災が発生した1995年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになった。さらに、特定非営利活動促進法(1998年)が施行される前に、全国に先駆けてNPOをサポートする中間支援組織が誕生した。現在では、自治会や婦人会、老人会、子ども会のような地域団体、NPO、中間支援組織など地域社会の多様な主体が連携し、新しいかたちのコミュニティづくりに取り組んでいる。

県民意識調査に基づき算出した「兵庫のゆたかさ指標」によると、神戸地域で「住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している又はしてみたい」という人の割合は、2013年の16.4%から2021年の25.3%と8.9ポイント増加している。また、「ボランティア等で社会のために活動している、又はしてみたい」という人の割合も2013年の14.1%から2021年の31.1%と17.0ポイント増加している。震災から25年以上を経た現在においても、神戸地域における市民活動、地域活動への関心は一層高まっている。

兵庫のゆたかさ指標(神戸地域)

項 目	2013年	2021年	2013年と2021年の比較
住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している又はしてみたい人の割合(%)	16.4	25.3	8.9 ↑
ボランティア等で社会のために活動している又はしてみたい人の割合(%)	14.1	31.1	17.0 ↑





一方、神戸市が実施した調査(2019年度「お住まいの地域のように神戸市内地域組織基礎調査」)によると、自治会等団体の運営・活動における課題の第1位は「役員が高齢化している」、第2位は「役員の後継者がいない」となっている。また、団体の代表者に占める70歳以上の割合は46.4%と前回の2016年調査に比べて3.8ポイント上昇している。地域自治を担う団体・活動の担い手不足・高齢化は深刻化しており、今後の運営・活動の継続に向けた大きな懸念となっている。

自治会等団体の運営・活動の課題について (役員が高齢化している)

	全市	東灘	灘	中央	兵庫	北
回答件数	1,772	125	104	72	163	252
全回答数に占める割合(%)	77.9	74.0	78.8	80.0	89.1	75.9
	長田	須磨	垂水	西	不明	
回答件数	198	209	262	244	143	
全回答数に占める割合(%)	89.2	85.3	73.0	68.9	75.7	

(役員の後継者がいない)

	全市	東灘	灘	中央	兵庫	北
回答件数	1,298	100	91	62	148	178
全回答数に占める割合(%)	57.1	59.2	68.9	68.9	80.9	53.6
	長田	須磨	垂水	西	不明	
回答件数	174	122	172	147	104	
全回答数に占める割合(%)	78.4	49.8	47.9	41.5	55.0	

出典:神戸市市民参画推進局「お住まいの地域のように神戸市内地域組織基礎調査結果」(2019)より
神戸県民センター作成



同調査におけるNPO法人の回答をみると、地域団体との連携を「既に行っている」と回答した割合は44.8%、「将来的には連携したい」と回答した割合は30.7%となっており、4分の3以上のNPO法人が地域団体との連携に既に取り組んでいるか、前向きな姿勢であった。

NPO法人と地域団体との連携状況について (既に行っている)

	全市	東灘	灘	中央	兵庫	北
回答件数	181	24	16	22	5	26
全回答数に占める割合(%)	44.8	47.1	41.0	26.5	25.0	46.4
	長田	須磨	垂水	西	不明	
回答件数	20	16	29	17	6	
全回答数に占める割合(%)	60.6	55.2	64.4	50.0	42.9	

(将来的には連携したい)

	全市	東灘	灘	中央	兵庫	北
回答件数	124	15	15	28	11	21
全回答数に占める割合(%)	30.7	29.4	38.5	33.7	55.0	37.5
	長田	須磨	垂水	西	不明	
回答件数	6	6	8	8	6	
全回答数に占める割合(%)	18.2	20.7	17.8	23.5	42.9	

出典：神戸市市民参画推進局「お住まいの地域のように神戸市内地域組織基礎調査結果」(2019)より
神戸県民センター作成

人口減少や近所付き合いの希薄化により、これまで地域を支えてきたコミュニティが衰退しつつあるなか、役員の高齢化、後継者不足等、地域団体が抱える課題は多い。しかし、神戸では他地域に比べ多くの中間支援組織が活動している。これらを介した多様な主体間のつながりと協働によって、時代に即した新しいかたちの地域コミュニティが創造されることが期待される。





5 自然環境との共生のあり方の変化 ～新たな「農都」、温暖化・災害への対応～

神戸は人口150万人の大都市でありながら、中心街にある高層ビル群の背後には美しい六甲山系が広がり、車で30分ほど走ると田園風景が続く。また、古くから世界への玄関口として栄えてきた港を中心に東西に海浜が広がり、身近に山や海のような自然を感じることができる。

このような都市と自然が近接している立地を活かしながら、浸透しつつあるテレワークも活用することによって、田舎暮らしやワーケーションなど多様な暮らし方、働き方が可能である。

但馬や淡路など県内には自然豊かな地域が多いものの、農業産出額をみると、県庁所在地である神戸市は県内第2位、近畿では兵庫県南あわじ市、和歌山県紀の川市、田辺市に次いで第4位であり、全国でもあまり例を見ない「農都」としての魅力がある。

2019年県内市町村別農業産出額(推計)上位5市町

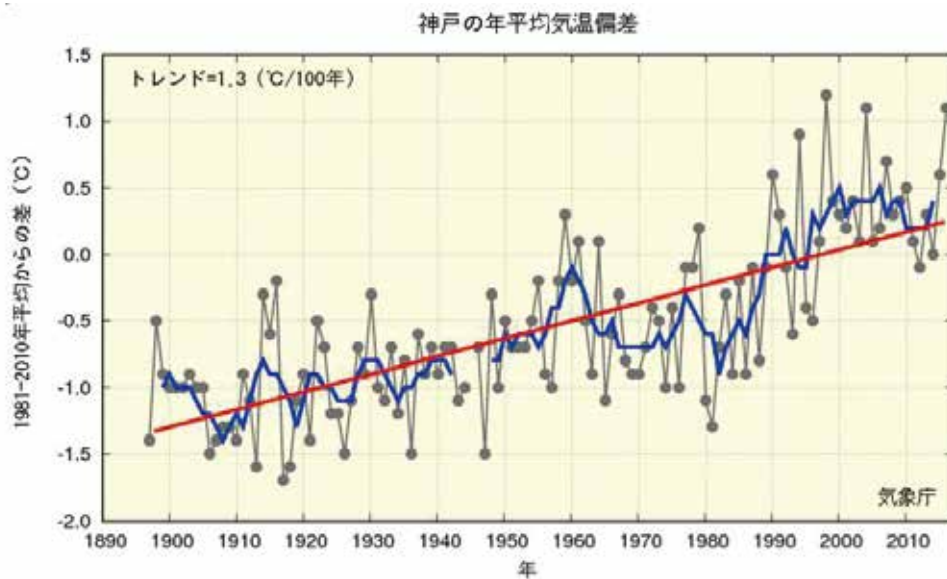
市町村	農業産出額 (千万円)	農産物	
		耕種	畜産
南あわじ市	2,135	1,562	573
神戸市	1,285	960	326
豊岡市	1,163	556	607
丹波市	1,157	651	506
姫路市	594	379	215

出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」(2019)
※計と内訳の合計が一致しないのは、表示単位未満を四捨五入しているため。

地域の将来を展望するうえでは、このように恵まれた自然環境を脅かす要素についても考えなければならない。地球温暖化により神戸の平均気温は、100年あたり1.3°Cの割合で上昇している。地球温暖化を食い止めるため、世界はカーボンニュートラル(温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること)に向けて動き出している。神戸においても、国際物流の結節点かつ産業拠点である神戸港において、「カーボンニュートラルポート」の形成に向けた検討が始まっている。水素、アンモニア等の次世代エネルギーの大量輸入や貯蔵、利活用を図るとともに、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化を通じて温室効果ガスの排出を港全体としてゼロにするため、二酸化炭素排出量の削減について、議論が行われている。

さらに、地球温暖化対策として、社会経済活動のあり方が大きく変わろうとしており、地域社会を構成するメンバーそれぞれの考え方や行動の変革も迫られている。

神戸における年平均気温の変化(1987年から2016年)



(黒線は各年の値、青線は5年移動平均、赤い直線は長期変化傾向を示す。)
引用:神戸地方気象台より

また、近い将来に発生が予想されている南海トラフ地震への備えも必要である。2012年3月に国が公表した震度分布・津波高によると、神戸市の最大震度は震度6強、最高津波推移は3.9mである。県の主な被害想定では、夏の昼間12時発災の場合は、死者は9,344人となっている。

神戸地域における南海トラフ発生時の主な被害想定

項 目		冬の早朝 5時発災	夏の昼間 12時発災	冬の夕方 18時発災
建物 被害	全壊(棟) (うち揺れ)	2,798 (1,652)	2,716 (1,652)	3,109 (1,652)
	半壊(棟)	25,026	25,040	24,980
人的 被害	死者(人) (うち津波)	3,334 (3,205)	9,344 (9,264)	7,209 (7,049)
	負傷者(人)	4,711	5,902	5,782
避難者(ピーク時、人)		24,490	44,115	37,744
帰宅困難者(人)		—	239,579	166,797

出典:県防災企画課「兵庫県 南海トラフ巨大地震津波被害想定」より神戸県民センター作成



神戸は阪神・淡路大震災を経験しているが、震災から25年以上経過し、住民のなかにも震災を経験していない人の割合が年々増えている。こうしたことから、「災害時の避難所と避難方法を知っている」と回答した人の割合、「家庭で災害に対する自主的な備えをしている」と回答した人の割合など、災害に対する日常生活のなかでの備えに関する意識は、兵庫県全体の平均と大きく変わらない。むしろ、神戸地域には都市部が多く、地域コミュニティのなかでのつきあいが全般的に希薄であることを背景として、「地域での災害に備えた話し合いや訓練に参加している」という人の割合は、県全体の割合に比べて低い。

兵庫のゆたかさ指標(神戸地域)

項 目	2013年	2021年	県全体 (2021年)
災害時の避難所と避難方法を知っている人の割合(%)	61.9	70.9	70.9
家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合(%)	39.7	46.4	43.3
住んでいる地域で、災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合(%)	14.6	13.6	21.5

自然環境との共生として、神戸にある自然環境を活かした観光、ワーケーション等に加えて、地域内の地産地消を通じた田園部と都市部の交流など、「農都」としての資源を活用した循環型経済の実現により、地域の持続可能性を高めることができる。

一方、地球温暖化による風水害の激甚化や南海トラフ地震の脅威についても考えなければならない。地球温暖化については、神戸においてもカーボンニュートラルに向けた水素活用など温室効果ガス削減の試みが始まっているが、これからの社会を考えるうえで喫緊の課題となっている。また、防災については、阪神・淡路大震災を教訓に先進的な取組を進めてきたが、震災から27年を数える今、人々の防災に対する意識は決して高いとはいえず、地域としての防災力は兵庫県の他地域に比べても弱くなっている。いざというときに頼ることができるつながりをどのようにつくり、維持していくかが課題である。



神戸地域ビジョン2050（2022年3月）

新神戸地域ビジョン検討委員会／神戸県民センター

事務局（連絡先）：

兵庫県神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当

〒653-8767 神戸市長田区二葉町5-1-32

電話：078-647-9107

FAX：078-642-1010

e-mail：kobe_kem@pref.hyogo.lg.jp

3神戸®1-004A4

